

に進めば四石山を経て砂川驛に至ることが出来る。峠を越して楠畑へ向つて谷を下る。楠畑を過ぎて數分、右に折れて進むと一つの峠に差掛る。峠を下れば、坦々たる根來街道に出る。本街道は紀泉を結ぶ一重要交通路で、車馬の往來も頻りである。風吹峠は最近道幅が廣げられ、その切取線には、和泉砂岩層の砂岩礫岩、頁岩等の互層の露出を見ることが出来る、街道を下るに従つて視界急に開けて廣やかな紀ノ川平野が見えて来る。やがて左手に大門池が見え其の堤の櫻花が根來寺の堂宇を背景として眼前に展開し目の覺める思ひがする。根來寺は天正年間兵火のために二千有餘の堂塔は灰燼に歸したが、金堂や多寶塔を始め數多の堂宇と廣大なる境内は數萬の山法師を畜へた昔時の盛觀を偲ぶに充分であり、境内に充ち／＼たる櫻樹は紀泉第一と稱せられ、



花見客で賑ふ。こゝより船戸に行くか、又は健脚向には南海山手線紀伊驛まで、歩を伸すも可。紀伊驛へはバスの便がある。

○参考

【根來寺】(大傳法院) 新義眞言宗、覺鑊上人即興教大師の創建、はじめ高野山にあつたが正應年間即今から約六五〇年前この地に移さる。當時一山の諸堂坊舎二千七百餘宇あり、戰國の世には僧兵多數を擁し、屢信長等の軍を惱ました。天正十三年三月秀吉の爲めに攻め焼かれ一山盡く灰燼に歸す。現在のものは主に慶長時代の再建で、天正以前の古建築には大師堂と多寶塔婆があるが、最も有名なのは後者である。多寶塔婆は國寶で、我國現存中のものとしては最大のもので俗に根來の大塔と稱される。境内櫻花甚多く、散在せる堂宇の間に咲き亂れたる様は正に壯觀である。

〔紀泉アルプス〕

山中溪驛—烏ヶ丘—小パノラマ臺—大パノラマ臺—墓の谷—直川觀音—六十谷驛—紀伊驛

紀泉方面へ紀泉アルプス

徒歩距離 約十五軒

日本アルプスほどの高山性を欠くが、岩塊の尾根沿ひに紀伊の重疊たる連嶺を眺め乍ら行く景観は將に日本アルプスに髣髴たるものがあり而も眼下に大阪灣の眺めを恣にすることが出来る明朗廣潤なるコースで、手近かに登山氣分を満喫出来るコースとして尤なるものである。

山中溪驛より南すること暫し右折して川を渡れば直ちに登山路にかゝる、之より稍險路を上れば本縦走コースの北端烏ノ丘に立つことが出来る、怪奇なるトーテンポールの下に憩へば眼下に大阪灣の風光が展開する、尾根づたひに進めば暫くで小パンラマ臺に達する、足下には白く禿けた支脈が白波の如く續き之に和泉砂岩の互層と砂防工事の石垣が縞模様を織りなして居る、和泉、紀伊兩山脈の山々、帯の様な和泉海岸平野、大阪灣を隔てゝ六甲淡路の山々の眺望を恣にする。之れより殆んど禿けた山嶺を上つては下り下つては上ること幾十回、アルプス氣分に浸り乍ら大パンラマ臺に達する。登ると紀ノ川の谷が濶然と開けて目の覺める思ひがある。こゝは本コースの最高峰海拔四九〇米、小パンラマ臺よりも更に紀淡海峽・紀伊水道を隔てゝ四國をも淡墨の如く望み得て眺望絶佳である、この邊で辨當を開いて充分休息するがよい。大パンラマ臺より下山

すると暫くで道は二つに分れる、左に尾根沿ひに下れば紀伊驛に至り、右に谷を下れば役行者の母の墓ある墓の谷に達し、こゝからは廣い道となり、直川觀音に詣でゝ六十谷驛に達する。

### ○参考

【墓の谷】 役行者の母が晩年を送つた處と傳へられ、母の墓と不動明王、行者及行者の母の三體の像を安置した堂があり、毎月新舊の七日には參詣者が多い。

【直川觀音】 役行者の開基にかゝる古刹である。

### 〔御東遷聖蹟めぐり〕

①南海線樽井驛—雄の水門—濱の天神—男ノ神社—平野山—玉田山—波太神社—お菊寺—清水庵—尾崎驛

徒歩距離 約十二軒

波太神社より鳥取莊驛に向へば約十軒

②玉田山より小川温泉に至りて鳥取莊驛に至る

紀泉方面（御東遷聖蹟めぐり）

徒歩距離 約十三軒

神武天皇御東遷の際御上陸遊ばされた聖蹟雄ノ水門を中心とするコースで史蹟巡りを兼ねた恰好のコースである。

○参考

【神武天皇聖蹟雄水門】 樽

井から信達村の間は、古の茅渟山城水門に近い。

日本書紀に「天皇軍至茅渟山城水門。亦名、山井水門。時五瀬命、矢瘡痛甚、雄誥而田死。時人歸其所。曰雄水門。」

といふのは實にこの樽井、信達の海岸、男里川のミナトである。チヌの海(血沼)といふ名もこの時に出来たといふ。



今男里川の流域雄信達村に男神社といふ府社があつて神武天皇を祀る、この神社の濱の宮といふのが海岸砂洲の上にあつて五瀬命を祀り、濱天神といふ。

【波太神社】 祭神、角凝命、應仁天皇、古來鳥聚宮又は波太八幡と稱せられ、翠濃き森に鎮座されてゐる。

【玉田山】 海拔八二米に過ぎないが眺めは相當良く、古くより有名な山である。

〔小島住吉・加太めぐり〕

要塞地帯で五萬分の一地圖がない、和歌山二十萬分の一地圖に依る。

南海深日驛—谷川—小島住吉—大川—八幡宮—深山聯隊—淡島神社—加太電鐵加田驛  
徒歩距離 約十五軒 但小島淡島間約八軒

和泉山脈の海に没する所、海崖の下を白波に戯れ乍ら行くコースで、間近かに淡路島、友ヶ島の眺を恣にすることが出来、海崖には和泉砂岩層は縞模様を展げて見物である。

難波を發して林立する煙突を縫つて堺、岸和田、貝塚佐野等の所謂大阪灣沿岸工業地帯を過ぐると尾崎邊より、電車は波打際を通り、碧い海を眺めると、南の暖國紀州に近づきつゝあるを覺

えしめる。深日驛で下車して、深日村に至る、こゝも魚釣の名所であるが、村はづれを左に折れて海邊を通り、小さな海水浴場を眺め乍ら、前面の観音崎の山を右手に進むと谷川に至る、小さい乍らも、天然の良港をなして居る、それより暫く海岸を離れて山腹を進むが、間もなく海岸に出る。こゝは和泉山脈が茅渟海に没する處、海波の侵蝕を受けて海崖を成して居る、崖下の道を進むと春の暖い波が足下を洗ふ、而も山脈の主軸をなす和泉砂岩の互層が、いとも明瞭に縞模様を織り成して居る状は將に壯觀である。明神崎の小島住吉神社に參拜、大川の圓光大師に詣で、砂礫の袖の濱に憩ふ。それより再び山地に入つて深山の重砲聯隊を経て加太町に至る、魚の臭ひのむつとする街や、釣客相手の旅館の立並ぶ街を通つて、町端れの淡島神社に參拜する。前面に近きは地の島と沖の島、紀淡海峡を距て、淡路の山々が黛の如く横はる。豪壯味は無いが、女性的なもの軟らかな風景として賞するに足るものがある。加太驛に引き返して加太電車に乗り、磯の浦二里ヶ濱等の海水浴場を右に見て、和歌山市に至る。

○参考

【加太神社】 淡島神社とも言はれる、少彦名命、月讀命、大己貴命、神功皇后を祭神とする縣

社。

上古は友ヶ島に鎮座されてゐたが、仁徳天皇淡路島に遊獵し給ひし時此地に移されたと言はれる。神功皇后、三韓より凱旋される途中風波に逢はれ歸路を失はれたが此の神の御守護によつて無事に凱旋され、其の上産後の御惱みも治つたといはれてゐる。この因縁によつて海上鎮護の神となり、又、子授けの神安産の神及び縁結びの神として信仰を集めてゐる。

【泉南飯盛山】

和歌山 二十萬分の一

南海孝子驛—孝子觀音—飯盛山—淡輪驛

徒歩距離 約八軒

淡輪遊園地のつゝじ見物と背後の飯盛山ハイキングを兼ねたコースで、飯盛山より淡路島を見下す眺望は頗る廣潤。

○参考

【淡輪】 背後の丘陵地の崖下の水深き處に築いた港で洲本との間に定期船が通ふ、魚釣の名所

紀泉方面（泉南飯盛山）

として旅館等の設備もあり、山は遊園地となりてつゞじ、さつきの名所である。驛の東南に垂仁天皇の第二皇子五十瓊敷入彦命の古墳がある。

〔紀泉國境鳴瀧越〕

和歌山 二十萬分の一

南海箱作驛—紀州街道—出合ノ瀧—大福山—金剛童子山—札立山四寶臺—切立三寶臺—鳴瀧不動—紀ノ川驛

徒歩距離 約十八軒

和泉山脈の西端を尾根傳ひに大阪灣を俯瞰し乍ら進む本コースは飽く迄明朗廣潤であり、隣りの紀泉アルプスと同様に、アルプス登山気分も味はふ事が出来る。

箱作驛を出て妙見山の遊園地を巡り、小川に沿うて進み登山にかゝる、大福山よりは紀泉の國境線たる尾根を傳ひ金剛童子山を経て札立山に至る、道は山頂を上下して變化に富み、大體禿山で眼を遮るものが無い。札立山は紀淡海峽を眼下に見下し、六甲淡路、四國の山々、さては瀬戸内海の島々をも遠望し、背後は紀伊の山々の重疊たるを見る、將に一大パノラマである、充分

休憩の後、「切立の三寶臺」に至れば紀の川の谷が真正面に見られ、それより急峻な坂路を下ると間もなく鳴瀧不動に出る、そして淡路街道を経て紀ノ川驛に至る、途中乙女櫻の名木で有名な観音寺に立寄るもよく、或は紀ノ川の清流を渡つて和歌山市驛に至るも宜し、尙鳴瀧不動より南海山手線六十谷驛に出る方が最も近道である。

○参考

【鳴瀧山園明寺】 境内には琴平宮、辨財天、毘沙門天、發明稻荷等の祠が並んで居る、いはゆる鳴瀧不動として知られ、紅葉の名所で、不動瀧、新瀧等がある。

【乙女櫻】 観音寺に在り、八重櫻で天然記念物に指定されて居る。

【注意】 要塞地帯につき撮影模寫嚴禁

〔紀泉國境猿坂峠〕

和歌山 二十萬分の一

南海線深日驛—谷川—理智院—興善寺—西組—不動尊—和泉式部邸趾—西畑薬師如来—十一面觀世音—猿坂峠—木本八幡—加太電車八幡驛

紀泉方面（紀泉國境鳴瀧越・紀泉國境猿坂峠）

徒歩距離 約十四軒 深日谷川間のバスを利用すれば約十軒

和泉山脈が海に没せんとする西端を横断するコースで猿坂峠紀泉國境碑より双子島淡路阿波の山々を見下ろす大パノラマの麗しさは本コースの誇りである。田川港は魚釣りの名所、西畑は植木の産地であり、興善寺、理智院、木本八幡、和泉式部邸等の古社寺舊蹟にも富んで居る。

○参考

【理智院】 櫻の名所、本尊は不動明王、縁起によれば、聖武天皇の勅願により僧行基の開創にかゝる。追風不動と稱し、豊臣秀吉朝鮮征伐の折風浪強きため谷川港に船を停めし時不動明王の加護によつて、風収まり、出帆することが出来た、凱旋後秀吉自ら我が像を刻み肉を植ゑて當山に納めしものなりと言ふ秀吉肉附の像を安置す、航海者の崇敬が厚い。

【興善寺】 文徳天皇の勅願により慈覺大師の創建せしもの。本堂に安置せる本尊大日如來、及び兩脇士は慈覺大師の作なりと傳へ國寶である。境内よりは田川港を見下して風光に富む。

【本木八幡】 祭神は應仁天皇神功皇后大日靈神。小野道風の書がある。

〔紀州山東三社巡拜〕

和歌山 二十萬分の一

南海山手線東和歌山驛―日前神宮國懸神宮―竈山神社―伊太祁曾神社―山東鐵道伊太祈曾驛―東和歌山驛―和歌山城―南海和歌山市驛  
徒歩距離 約十四軒

山東三社を巡拜して古き神代の昔を偲ぶと共に南國的香りの匂ふ和歌山近傍の風光を賞する家族向のコースである。

健脚家は更に紀三井寺、和歌浦まで歩を延ばすと尙更豊富なコースとなる。

○参考

【日前神宮・國懸神宮】 官幣大社 祭神 日前大神・國懸大神

日前神宮は日像鏡を御靈代として日前大神と申し國懸神宮は日矛鏡を御靈代として國懸大神と申し奉る。初め天照大神天岩戸に隠りませし時石凝姥命を治工として天香山の銅を採つて鑄られたのがこの兩神宮の御靈代でこの鏡は少しく神々の御意に合はず、次に鑄られたのが

紀泉方面（紀州山東三社巡拜）

八咫鏡であると言はれてゐる。すべて事の始めに其の成功を祈願すれば叶はないことがないと崇められ國家隆昌家運繁榮を祈願するものもある。

【竈山神社】 官幣大社 祭神 彦五瀬命

神武天皇御東征の御砌皇兄五瀬命孔舍衛坂の戦に流矢に當り給ひ、紀の國雄水門に至り給ひて終に薨去遊ばされたが、こゝに葬り給ひ、神社の北側に御墓がある。古來武の神として尊崇厚し。

【伊太祁曾神社】 官幣中社 祭神 五十猛命

祭神五十猛命は素戔鳴尊の御子で、初め御父神に隨ひ新羅國へ天降り給ひ、多くの木種を持ちて我が大八洲に渡られて、木を繁殖せられ、後に、紀伊國に鎮座し給うたので、木の國と稱し、更に紀伊國と改稱されたものといふ。境内老杉多く檜の大木其他鬱蒼として繁茂し、命を奉祀するにふさわしい神社である。

【神武天皇聖蹟名草山】 竈山神社の南二軒名草山の西側は天皇が名草戸畔を誅したまひし聖蹟で今年顯彰碑が建つた。

〔生石山〕

動木 五萬分の一

紀勢線海南驛―野山電車生石口驛―福井峠―宮ノ前―大觀寺―立岩不動尊―生石山頂―生石神社―札立峠―宮ノ前―生石口驛―海南驛  
徒歩距離 約十六軒

紀伊山脈の雄大なる山谷に接すると共に廣大なる眺望を恣にすることが出来るコースである。

生石口驛より福井峠を越せば後に飯盛連峯を望み、前面には生石山が展開して来る、やがて宮の前に至る。宮の前は生石の表口で生石峰を



紀泉方面(生石山)

眞正面にし、山頂に笠石が黒く見られる、大観寺、大師押上岩を過ぎ、途中立岩不動尊に参詣するも宜し。元の道に引き返す。此の頃より途は甚だ險峻となる、休憩して汗を拭へば、龍門飯盛の山々、はては和泉、金剛の山々が視野に入つて来る、笠石(或は大石)を見て山頂に至る、山頂には笠石を始め巨岩が亂立し、生石山の名に背かない、雄大なる草原となつて居て眺望甚だ廣大である、山頂より生石神社に下り、山を半周して札立峠に至り、それより急坂を宮ノ前に向つて下る、眺望甚だ善し、それよりもと来た道を経て、生石口驛に至る。

○参考

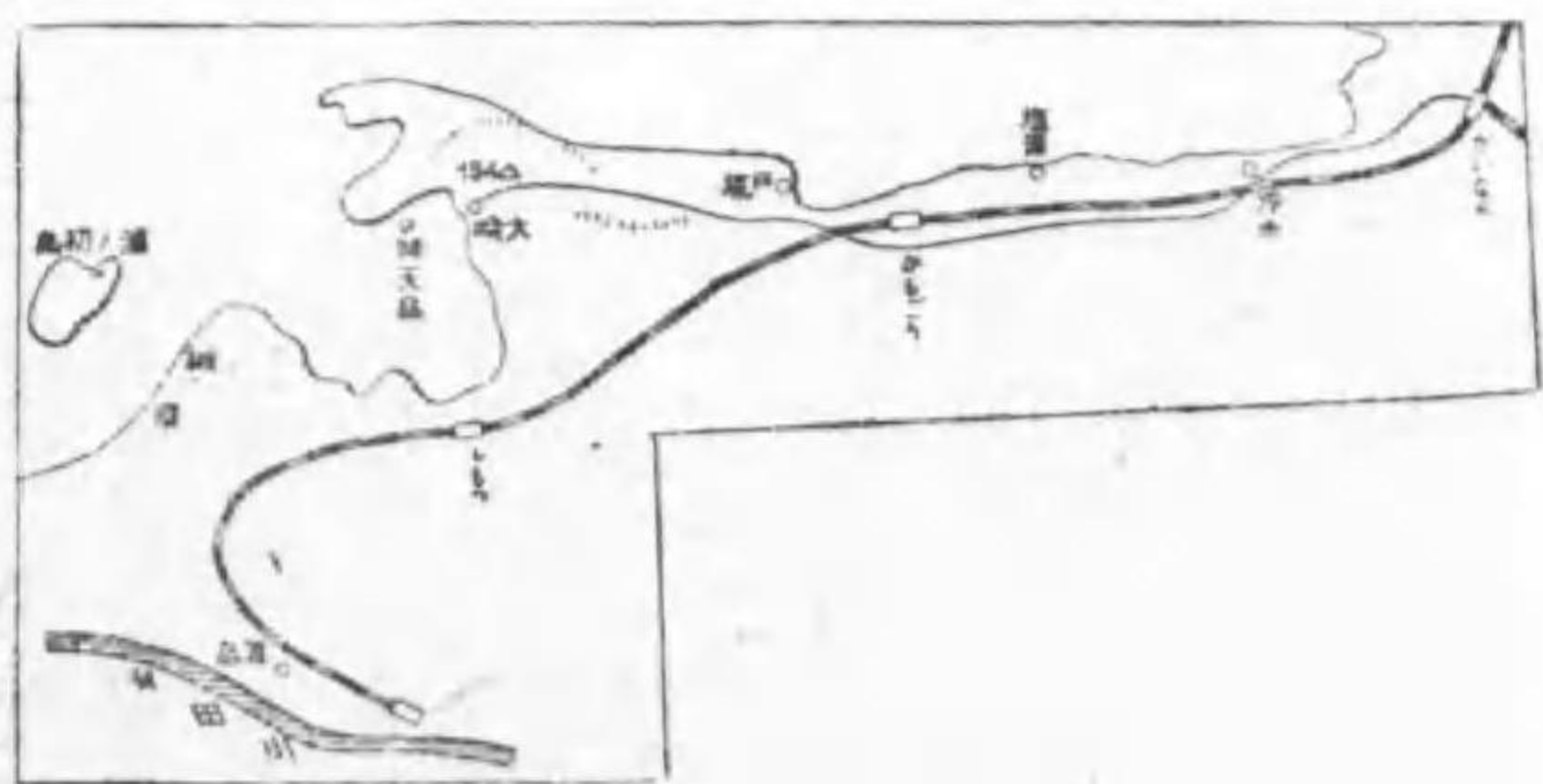
【生石山】 紀伊連峰の一脈長峯山脈の西方の山で和歌山の人々は龍門山を龍に生石山を虎に喩へて居るが、悠然たる其の姿にそうした面影が見られる。龍門山と共に當地方の名山である。山頂の眺望甚だ廣く、北は龍門山に和泉・金剛の山脈、東は大峯山、南は紀伊連山の隙間に太平洋を望み、西は有田川の溪谷を越えて、紀伊水道に、四國の劍山等を遠望し得る、山頂に山小屋の設備がある。

〔海南鹽津下津廻り〕

紀勢線海南驛—冷水—飯盛山—鹽津—戸坂—大崎—脇濱—下津驛  
徒歩距離 約十四軒

紀伊水道に面すること、紀南の海岸は小屈曲に富んだりヤス式海岸の優美さを遺憾なく發揮して居る。海岸沿ひの平坦道は足も自づと軽やかになる。紀州名物の蜜柑畑には驚歎の眼を見張らぬ者は無からう。海南驛下車、熊野街道の坦道を通つて町を通り抜ける。兩側に材木の堆高く積まれてゐるのは流石に紀の國即ち「木の國」だと肯かれる。町を離れて、墨江灣を右に見乍ら鐵道と、略平行した道を進む、海岸は小屈曲多く道も曲る、冷水、飯盛山を経て、鹽津に下る、戸坂より背後の峯の上に上る、この邊より徑は細くなつて迷ひ易いが、尾根沿ひに行くといふ。こゝは松林が繁つて眺望が宜しくないが、尾根の最

紀泉方面(海南鹽津下津廻り)





も狭まる處、徑より一寸松林の中に入れば絶好の展望地がある。前面の和歌浦灣を距て、和歌浦の突出や紀淡海峽淡路島を望み、一幅の南畫である。少し辛抱して此處で晝食を採るのも一策である。大崎は前面に辨天島を配して天然の良港、リヤス式海岸の小さな一離型か。甚だ愛すべき風景である。之より下津の灣に沿ふて硯に至れば群立する石油タンクを見る事が出来る、之より更に海岸に沿ふ小徑を行くか、成は山の後を廻つて廣道を行くかして下津驛に至つて行程を終る。家族連れならば、鹽津より熊野街道で、黒田を経て下津に至るのは頃合であらう、これでも墨江灣で海岸美を充分味ふことが出来る。

尙ほ道を換へて違つたコースを取らんとすれば次のコースを選ぶことが出来る。

①鹽津大崎・下津コース

加茂郷驛—鹽津—戸坂—大崎—脇濱—下津驛

里程 徒歩 約九軒

②鹽津下津・箕島コース

加茂郷驛—大崎—脇濱—下津—天神越椒濱—箕島驛

里程 徒歩 約十六軒

〔南紀日ノ御崎〕 湯淺 五萬分の一

紀勢西線御坊驛—臨港鐵道—西御坊驛—本之脇—三尾村—日ノ御崎—田杭—阿尾—(バス)紀伊内原驛又ハ御坊驛

徒歩距離 約十五軒

大阪より日歸りコースで雄大な太平洋の景觀を眺めんとせば本コースを選ぶに如くは無い。御坊驛よりガソリンカーで西御坊に至り、之より大濱へ出て、約一里に亘る御坊大濱の防風林中の坦道を通つて本之脇に至る。其の少し手前なる日の御崎神社に參詣すれば、前面には、澎湃たる大洋を見渡すことが出来る。之より進めば、海岸は海波

紀泉方面(南紀日ノ御崎)



の侵蝕を受けて、奇岩怪石亂立して居る。間もなく、三尾村の手前、街道より離れて海蝕洞なる「久米の岩窟」がある。三尾村アメリカ村とも言はれ、全村殆んどアメリカ、カナダ等に出稼し村は其の送金と歸郷者で、富有である。それより暫く砂濱を通りやがて道は山に登ると間もなく燈臺に達する。許しを得て燈臺を見學し、そこより眺むれば、前面は澎湃たる太平洋の碧波、右も左も海、海、思はず快哉を叫ぶ。日本新八景なる室戸岬に行かずとも、こゝにて充分海の豪快味を味ふことが出来る。燈臺よりもと来た道を少し引き返し、道標を左に折れて進めば田杭、それより阿尾の港に至る、こゝからバスが内原驛又は御坊驛に至る。尙道成寺にも詣らんとすれば逆コースを取る方が面白い。

○参考

【御坊大濱】 大松原は約一里以上幅約五百米、日本一の稱があり、海は海水浴にも適し、キャンプの好適地でもある。

【三尾村】 俗にアメリカ村と言はれる、和歌山縣は地勢山勝ちの結果海外出稼甚だ旺んであるが就中この村は有名である。送金と歸郷者によつて、裕福に又モダンな生活をして居る。

【道成寺】 天武天皇の勅願により、紀大臣道成が、義淵僧正を開山として創建せしものと傳へらる。古來安珍清姫の傳説を以て有名である。寺寶の「道成寺縁起」は土佐光重の筆で國寶となつて居る。本堂樓門は室町時代の建築により特別保護建造物となつて居る。

〔龍門山〕

粉河 五萬分の一

和歌山線粉河驛—島尾—峠—山頂—勝

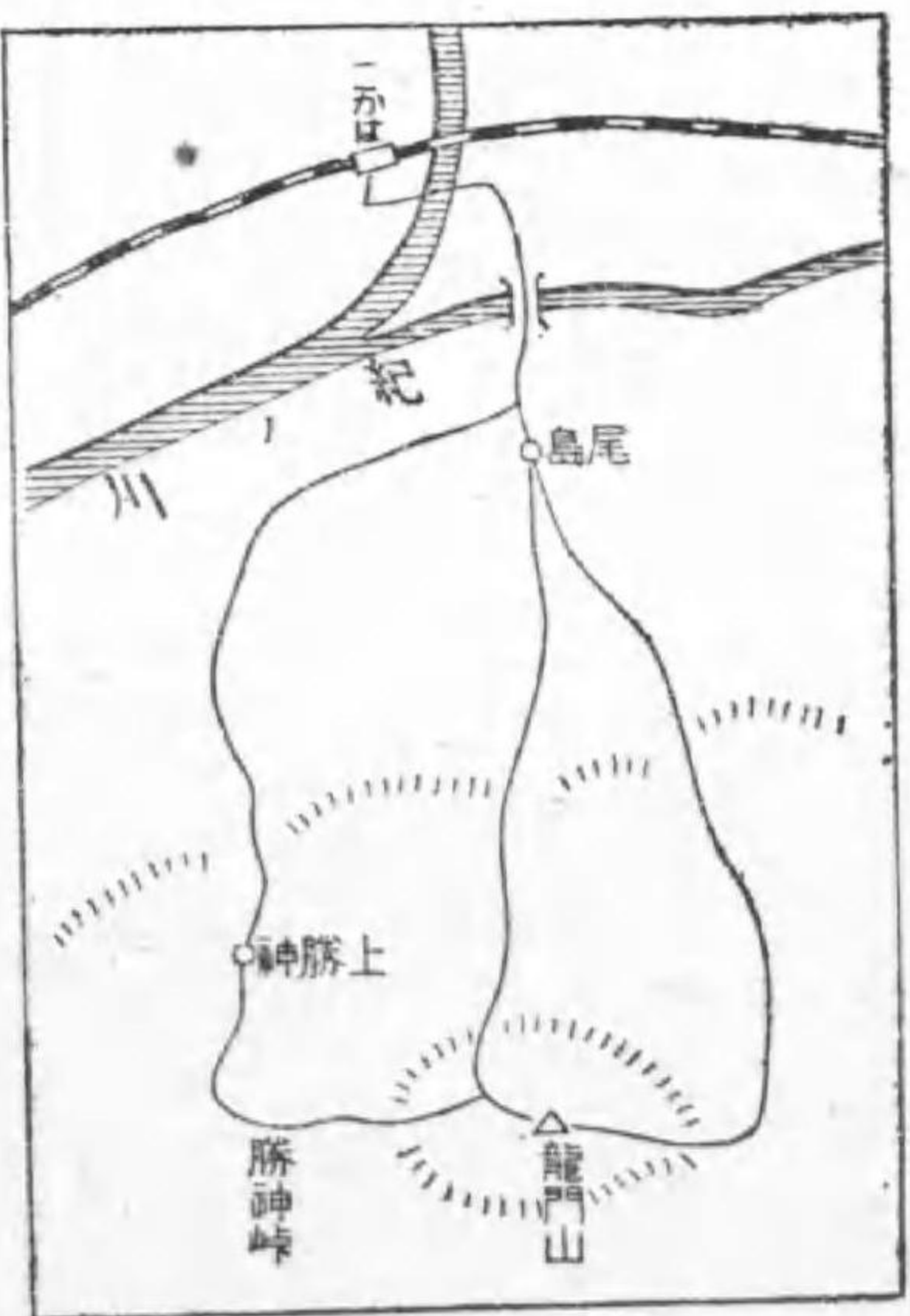
神峠—勝神—島尾—粉河驛

徒歩距離 十一軒

龍門山は紀州富士として和歌山地方第一の名山に推されて居る。重疊と走る紀伊山脈の一脈龍門山脈の最高峯、嚴然として紀の川縦谷に臨む姿は實に偉觀である。

粉河驛下車、紀の川の河原を渡る、尾島より峠(六三二米)までは可なり善い道が通じて居る、

紀泉方面(龍門山)



之より細路となり尾根に沿つて山頂に至る、この間脚下に流れる紀の川の清流や和泉の連山、背後の重疊たる紀伊の連山を眺め得て、今までの苦勞を忘れる、山は大樹に乏しく岩肌露出して所々に灌木があるのみである、頂上より少し進めば尾根は二つに分れるが、右に道を取つて下れば東杉原に至り、左に眞直ぐ進めば勝神峠に下る、後者は雑木が生ひ茂つて通行に困難を覚える勝神峠よりは良い道がついて居る。

〔高野辨天嶽・丹生都比賣神社〕 高野山 五萬分の一

高野山驛—金剛峯寺—大門—辨天嶽—大門—鏡石—矢立—丹生神社—慈尊院—九度山驛  
徒歩距離 約二十軒

ハイキングを兼ねて、高野詣でをするに面白いコースである。高野山驛でケーブルを降りて金剛峯寺に参詣する、高野の寺々を巡るのは先を急ぐので割愛して直ちに大門に至る。之れより辨天嶽に登れば楊柳山其他の峯々に圍まれ高原の凹地にある高野を大觀することが出来、大塔・金堂を見下し遙か彼方に荒神嶽と大塔とが一直線に聳つて望み西方遙かに淡路、四國の山々も遠望す

ることが出来る。大門口は高野七口の本道で、之より慈尊院まで一町毎に里程標が建てられてある。道は大體尾根沿ひに下る一方、矢立より西高野街道を右に分れて丹生神社に参詣する、雨引山に至れば眼下に紀の川の谷が潤然と廣げて眺望甚だ良し、慈尊院を経て九度山驛に至る。

○参考

【大門】 高野の總門で、大門口は高野口本道であるが、高野線の開通によつて不動坂口が本道の様になつてしまつた。

【辨天嶽】 高野は辨天嶽・楊柳山を始め約千米の諸峯が八葉蓮華に圍む凹所にある、東西約五軒、南北約二軒の廣大なる平地である。辨天嶽は高野を一眸の下に收め紀の川の清流を距て、和泉山脈の山々、紀伊の連嶺、

紀泉方面（高野辨天嶽・丹生都比賣神社）



西方遙かに淡路、阿波の山々をも望み得る、頂上に辨財天を祀る。

【丹生都毗賣神社】 官幣大社、天照大神の丹生都毗賣大神を祀る、弘法大師が神靈に導かれて高野山を開くに至つたといはれ高野の守護神とされて居る。通稱天野神社と呼んでゐる。

【慈尊院勝利寺】 弘法大師の母を祀る、大師の母公が大師を慕つて高野へ來られたが、女人禁制なれば其の儀叶はず、大師は九度山に庵を結び、こゝに母公を奉じて、自身高野の上り下には必らず訪れて孝養を盡した。其の回数月に九度にも及ぶことがあつたので、九度山と稱したのだと言ふ。

### 〔高野奥山三山〕 高野山 五萬分の一

高野山驛—女人堂—奥の院—摩尼山—楊柳山—轉軸山—中ノ橋—女人堂—高野山驛  
徒歩距離 約十五軒

幽邃崇嚴なる高地に無慮數百の堂塔伽藍櫛比する佛都高野山を訪ふと共に、背後の山々を究め森林美と眺望を楽しまんとするものである。

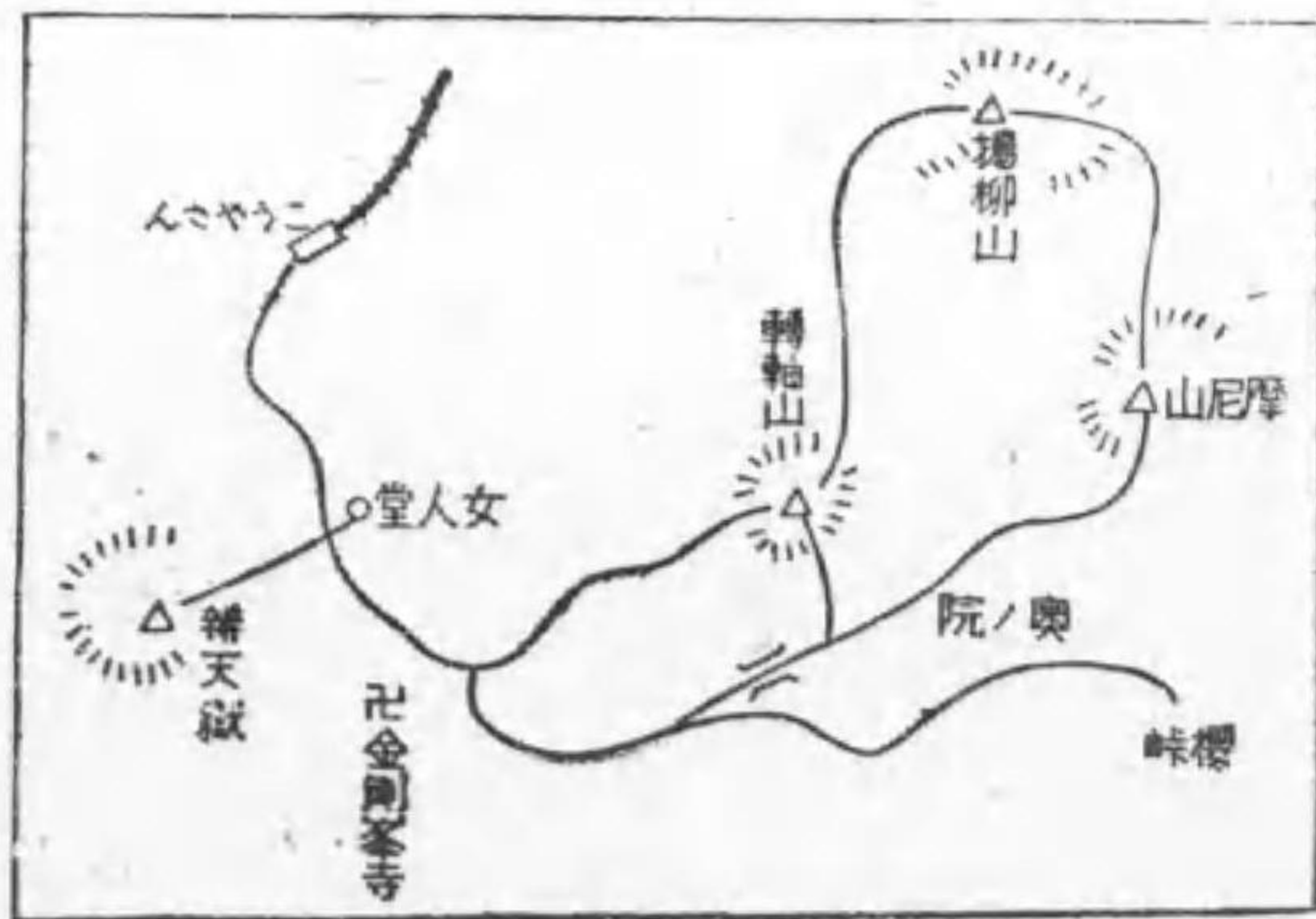
高野山驛より女人堂を経て、立ち並ぶ壯大なる伽藍、奥の院の墓碑の間を抜けて弘法大師廟より摩尼山に上る。山頂の眺望甚だ好し如意輪觀世音を祀る。更に峯傳ひに楊柳山に至る。觀世音菩薩を祀る。それより轉軸山に至れば下にスキー場を見下し、山頂に彌勒菩薩を祀る。之より中ノ橋を経て、高野山驛に至る。

### 〔荒神嶽〕 高野山 伯母子嶽 五萬分の一

高野線極樂橋驛(ケーブル)—高野山驛—女人堂—櫻峠—陣ヶ峯—荒神嶽—上垣内—大瀧—薄峠—高野山驛  
徒歩距離 約三十一軒

一日行程で、雄大なる山岳美と深嚴なる森林美を満喫することが出来るコースとして是非試みらるべきものである。

紀泉方面(高野奥山三山・荒神嶽)



荒神嶽迄一丁毎に町石があり、立里荒神への参詣者多く道に迷ふことなく、左方に峡谷を隔て、大和アルプスの連嶺を眺め乍ら愉快に登ることが出来る。

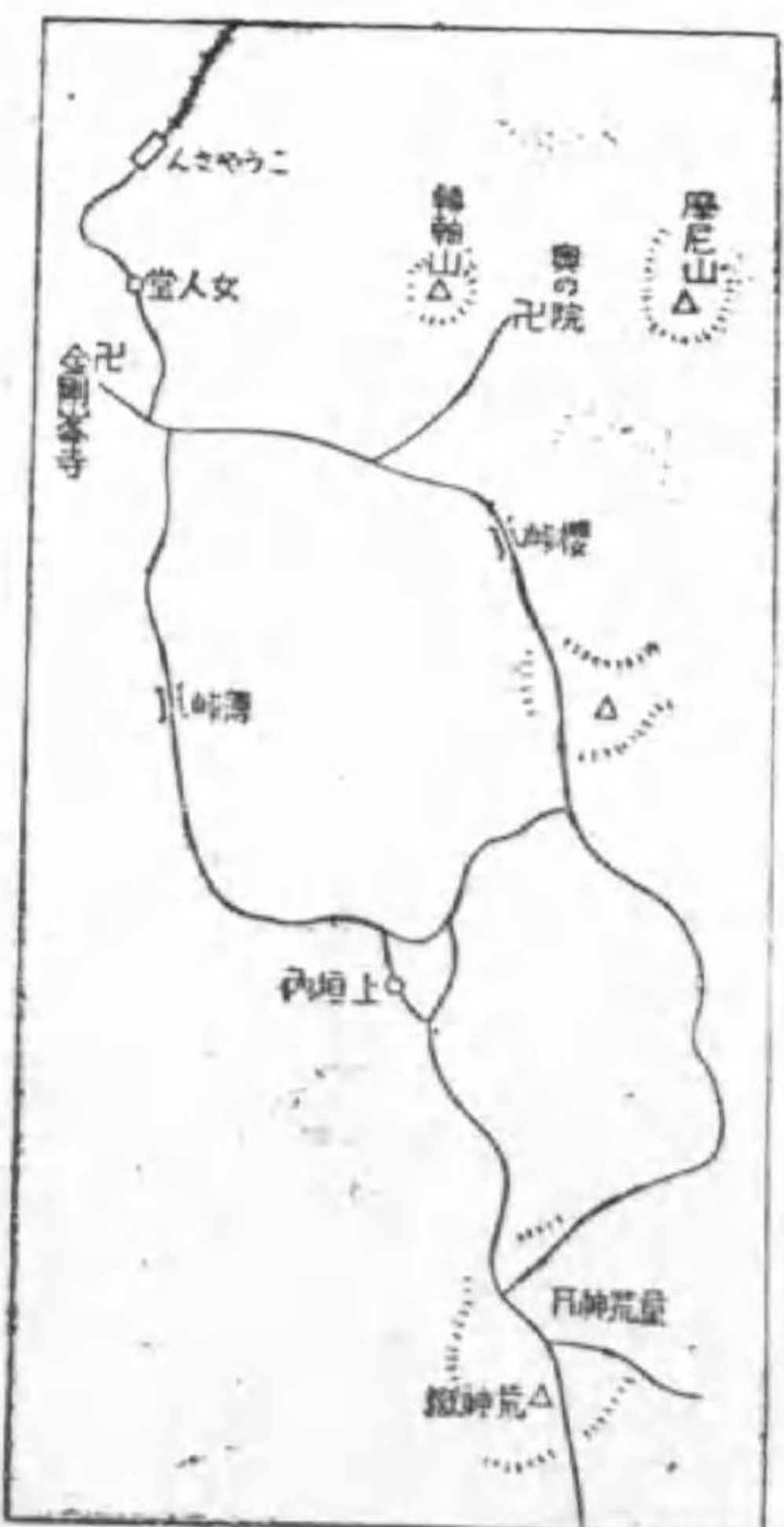
○参考

【荒神嶽】 海拔一二六〇米、紀伊

山脈の雄峰で、眺望甚だ雄大、

北に高野山、金剛山、南に伯母子嶽、東に大峯山脈西には淡路島を遠望し、日の出、夕日の麗しさは又格別である。十一月より三月迄は霧氷の美観を見ることが出来る、山頂に三寶大荒神を祀り、参詣多く、其の参籠所は百人を容ることが出来る、こゝに一泊するのも面白

50。 歸路池津川に下ればグエの瀧あり、往路を取るも善し。又東南タイ谷を下れば約八杆にして



川原樋川と合ふ所にタイ谷がある。

〔護摩ノ壇山・龍神温泉〕

伯母子嶽・龍神 五萬分の一

高野山驛―大門―湯川辻―新子―箕峠―笹の茶屋―古笹ノ茶屋―護摩壇山―越戒瀧―小森―殿垣内―龍神温泉(バス)―紀勢西線南部驛

徒歩距離 約五十杆 二泊

伯母子連嶺の最高峰護摩ノ壇山(一、三七〇米)と龍神温泉とを結ぶコースで大峯山系の様に巍峨たる峻峰に欠けるが、森林に包まれたる連嶺が大きな高低凹凸も無く、悠然と眠れるが如き雄大なる山貌と紀伊特有の人工の美林や、或は巨大なる原始林、更に數々の溪谷の美しさを満喫することが出来る。



紀泉方面(護摩ノ壇山・龍神温泉)

古來高野より龍神南部に至る龍神街道は熊野と高野參詣の善男善女、京都と南紀とを往復する人馬の通りで賑やかであつた。此の地方は都に近い上に、山又山に圍繞された溪谷は絶好の要害地避難地となつて、遠くは源平の戦南北朝の争ひ、近くは勤王志士の十津川義舉などに關係の數々の史實、傳説が秘められ山を旅する者の感懷を一入深くするものがある。

高野山驛下車高野町を通つて大門を出て左へ折れると瀧神街道が始まる、之より新子までは眞直く南へ長く伸びた尾根傳ひに、杉檜高野榎の大樹空を覆ふ森林を貫いて進む、湯川辻よりは木立は次第に疎になり見晴しが善く利いて来る。新子まで約三時間の行程此處には宿屋がある、此處に一泊して翌早朝出發して少し張頑れば龍神温泉まで日一杯で行くことが出来る。新子より溪谷の右岸を上る。谷間の狭い土地を拓いた山田が層々に連なつて居る、箕峠の眺望も悪くはない白口峯より護摩壇山まで約六軒の間が、山毛櫨を主とする原始林の巨樹に掩はれて晝尙暗く、樹下の道は苔蒸して、本コース中最も原始的森林美の發揮されて居る部分である。右側に長慶天皇御陵推定地あり、之より笹の茶屋、古笹の茶屋を経て護摩ノ壇山に上る。山は珍らしく萱草に包まれ、東は濃藍色の大和アルプスの連嶺を望み、西は煙波縹渺たる紀伊水道を見下して壯絶であ

る。之より尾根傳ひに殿垣内に至るは本道であるが、小森谷の幽谷を探らんとすれば、古笹ノ茶屋より郡界に引き返し城ヶ森山へ尾根傳ひに進み、地圖に現はれた二つ目の山より道を左に取りて急坂を下れば衛門、嘉門の兩瀧が並び、更に越戒瀧に出る、途中山林事務所の一軒屋あり、こゝはもと維盛の屋敷跡と傳へられる處である。更に明神瀧、赤壺、白壺の淵を見て小森の小部落に入る、以上古笹の茶屋より小森まで約四時間の行程で、道は悪い。小森より日高川の深溪を温泉に至る。温泉は無色透明、山青く溪流清く、人情亦醇朴旅の疲れを癒やすに充分である。一夜明くればバスにて日高川の溪谷を南部驛に下る。

### ○参 考

【古笹ノ茶屋】 約百名を收容出来る、此處に一泊すれば翌日の行程が楽になる。

【護摩ノ壇山】 紀伊の最高峰(一三三〇米)、短い萱草で掩はれ、眺望甚だ廣濶である。傳へる所に依れば平維盛は源氏との戦に敗れて、壇浦へ逃げる平氏の一門と別れて單身熊野へ逃れて小森谷に隠れたが、壇ノ浦の戦の勝敗が氣になるので、山へ上り護摩を焚いて若し其の煙が天へ昇れば平家の勝、谷へ下れば敗と定めて天に祈つた所が、煙が悉く谷へ下つたので平

家の運命も之迄と熊野灘へ入水したと。之が山の名の起源であると言ふ。

【維盛の屋敷跡】 維盛は難を避けて此地に隠棲した所と傳へられる。

【赤壺・白壺】 赤壺の岩は赤く白壺のは白い。維盛の愛人御萬が、投身直前口紅を捨てた處が赤壺、白粉を捨てた處が白壺であると言ふ。

【龍神温泉】 炭酸泉で無色透明、古くより其の名を知られ、南部よりバスの便が出来て、入湯客四時絶えず、設備もよく行届き湯治場に有り勝ちの嫌な所も無く、又都塵に染むことも無く氣持善き温泉である。

### 〔伯母子嶽〕

伯母子嶽 五萬分の一

高野線高野山驛—女人堂—櫻峠—陣ヶ峯—上垣内—北股—平—伯母子嶽—萱小屋—大股—水峯—大瀧—薄峠—女人堂—高野山驛

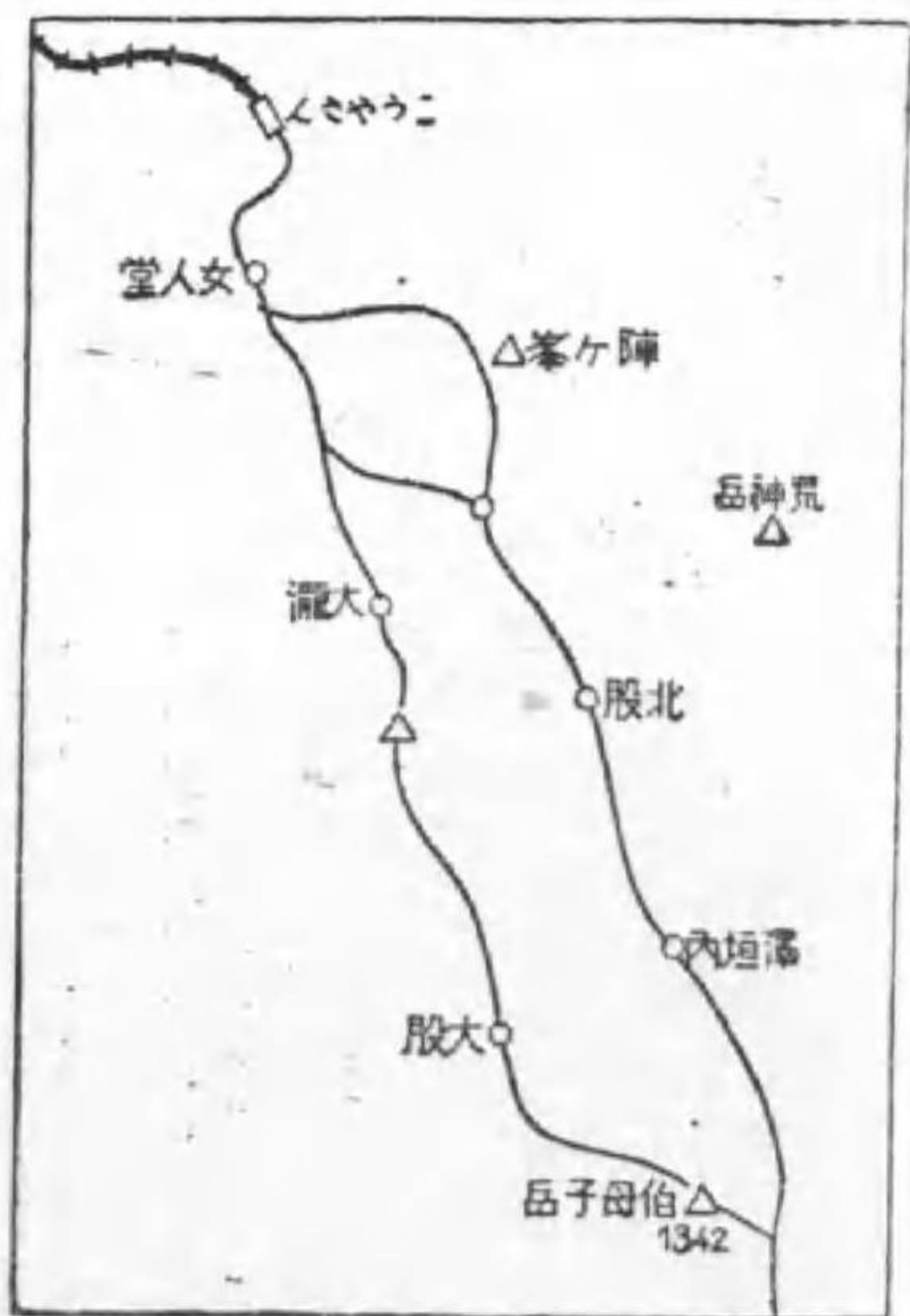
徒歩距離 五十七軒 一泊又は二泊

伯母子連嶺の盟主伯母子嶽(一、三四二米)は其の原始的な風貌と雄大なる眺望とは筆舌に盡し

得ないものがあり、晝尙暗き森林道の登山行は眞の山を愛する人々に取つて無限の喜びを與へるであらう。

北股、平、大股には旅宿もあるが普通の民家でも氣持よく泊めて呉れるのも嬉しいことである。宿泊料も一圓位である。全部よく踏まれた道が通じて居るから案内人は要らな

5。 尙荒神岳を経て來ると一層興味がある。



### 北撮方面

(阪急、阪神沿線)

#### 〔箕面奥山・能勢妙見山〕

大阪西北部、廣根 五萬分ノ一

阪急箕面驛—箕面瀧—勝尾寺—高山村—川尻—光明山—能勢妙見山—能勢電車妙見驛  
徒歩距離 十七軒

瀧と紅葉とでは大阪近郊隨一の勝地である。箕面公園の瀧道を登ること二軒、若葉の頃のこの道が又棄て難い瀧に辿りついて少憩、「右勝尾寺三十三町」の道標の坂を登る。政の茶屋をすぎ勝尾寺へ向ふ途は昆虫採集地としても知られてゐる。勝尾寺の五重塔の側を上つて寺の背後の山にとりかゝり、高山村をすぎ左折して、妙見街道と記した道標を左に曲ると、道は急となり、妙見山に近づく。山原を縫ひ、林を潜つて行くこのコースは變化のある登行路である。

右の逆コースをとるのもよい。能勢電軌の終點妙見驛に下車すると、北一軒半に妙見鋼索鐵道瀧谷驛がある。そこから山上までケーブルによつてもよいが、別な參詣道は杉木立蒼鬱たる間を

縫うて阪道を登ることが、建脚家には此上ない御利益が與へられることである。

#### ○参考

【箕面公園】 箕面川に沿うた谿谷に満山楓樹多く春の櫻花、初夏の新緑また稀に見る勝景を現はして北攝の地に於ける一大自然公園である。園の入口から大瀧まで約二軒の間平坦な廻遊道が通じて散策に適してゐる。箕面瀧は直下約四八米、所謂雌瀧で、この邊は全山の中心地となつてゐる。ここから上流へ約四軒で勝尾寺に到る。奥箕面ともいふべき處で、九十九折の山道を緩かな阪路が通じ、樹葉色濃く淡く全山幽邃境である。初夏の候杜鵑の鳴く聲も聞こえ、昆虫採集場としても知られてゐる。



北撮方面 (箕面奥山・能勢妙見山)



【瀧安寺】公園内に在り、役小角の開創にかゝる。本尊は木造六臂如意輪観音坐像で、鎌倉時代の作にかゝり國寶である。本堂安置の辨財天は四所の辨天と云はれ、竹生島・江之島・嚴島と並び稱せられる。

【勝尾寺】西國廿三番札所。

光仁天皇皇子開成の創立と傳へられる。寺は元暦元年平氏追討の時焼失し、源頼朝の再營があり、後に豊臣秀頼片桐且元に命じて堂宇を修補せしめたものである。境内楓樹多く、奥箕面探勝の中心地である。

【能勢妙見】妙見山(海拔六二二米)の山頂にある。慶長年間邑主能勢氏日蓮宗を信じ、日乾上人に歸依して以來、日蓮宗の名刹として参拜者の讀經題目の聲が四時絶えない。山上の眺望雄大で東は遠く愛宕山、西は丹波高原の山々を望み、南は大阪灣まで一眸の下に聚まる。

〔西箕面・久安寺〕 廣根 五萬分の一

箕面驛—箕面瀧—政ノ茶屋—舊高山路—八幡城址—久安寺溪谷—久安寺—陽松庵—東多田—

能勢電車多田驛

徒歩距離 十五軒

箕面瀧を更に箕面川を溯つて政の茶屋の邊から、途を左に折れ大阪府營の野營場を通つて箕面山の西舊高山路の尾根を行く。明るい雑木林の蔭に爽やかな風を入れ乍ら、久安寺川の溪谷に下る。久安寺より陽松庵に出で、更に西へ延ばして能勢電車多田驛に出る、時間の餘裕があれば多田神社に参詣してもよい。

【久安寺】 古義眞言宗高野派

行基菩薩の開基といはれる。樓門は室町時代の特徴を備へた建築で國寶に指定され、また寺寶の木造阿彌陀如來は定印の相好藤原時代の作で國寶である。

寺内の小鶴亭は豊臣秀吉當山に遊んだ時に宿泊した寺坊で、庭上には珍卉奇石が多く庭園の模範となつてゐる。

北攝方面(西箕面・久安寺)



〔惣河谷〕

寶塚驛—惣河橋—惣河谷道—寸萬辻—若宮—芋生—多田神社—能勢電車多田驛

徒歩距離 十六軒

惣河橋を渡つて福知山線北側の左を登る山路にとりかゝり緩やかな谷坂道を北へ十萬辻へ向ふ。

奔流深潭巨岩を縫つて幽境深く踏み入り、秘境惣河の溪谷美が溢れてゐる。峡谷一軒餘で川は二つに分れるが、左の方の本流を溯る。十萬辻より松林を抜け、向側の谷に下れば曲りくねつた街道があり、若宮、芋生の部落を経て多田院に至る間奥中山の溪に沿ひ野趣の豊かなコースである。

○参考



【多田神社】 多由村多田院に在る。多田源氏の祖源満仲を祀る。満仲は元當地の出生で、地名を姓とし、多田満仲と稱した。社地は即ちその宅址である。境内森嚴にして社殿の結構壯麗は「西日光」の稱がある。境内つゝじが多く近郊躑躅の名所の一に數へられてゐる。

〔中山・清荒神〕

大阪西北部、廣根 五萬分の一

中山驛—中山寺—夫婦岩—中山奥院—夫婦岩—清荒神驛 (前頁の地圖参照)  
徒歩距離 七軒

名刹中山寺より奥院に至り、更に夫婦岩に逆もどりして、清荒神に下る山浅く倭少の松と雑木の尾根筋は北攝特有の明るさを現はして家族向のコースに適してゐる。北攝一帯の平野から大阪灣の曲浦までを俯瞰し得て見飽かぬ景趣を展開してゐる。

○参考

【中山寺】 眞言宗御室派の別格本山

中山観音と呼ばれ西國巡禮第二十四番の札所である、聖徳太子の創建と傳へられ、現在の堂

北攝方面(惣河谷コース・中山・清荒神)

宇は慶長年間豊臣秀頼の造營したもので、金堂、薬師堂、太子堂、地藏堂の堂宇がある。本尊十一面観音は五尺二寸木彫の立像で藤原初期時代の作、國寶である。

【清荒神】 寺號を蓬萊山清澄寺といひ、古義眞言宗の名刹、四面翠巒を以て繞らされた幽邃な境地で、その背面山腹を蔽ふものは北中山國有林である。阪神地方屈指の流行神で、驛前から山門に至る間奉納の献燈がつゞく。毎年正月廿七、八兩日の初荒神、十二月の納の荒神には厄除、開運祈願の賽者が全山に溢れる。

〔満願寺・多田神社〕

大阪西北部、廣根 五萬分の一

阪急線花屋敷―満願寺―多田神社―天狗岩―小童寺―能勢電鐵山下驛

徒歩距離 十四軒 (二〇二頁の地圖参照)

花屋敷に下車して満願寺に詣で、坂田金時の墓より多田院に下り、源氏發祥の跡を訪ねて猪名川沿ひに山峽を小童寺に向ふ。多田三山を巡る史的興趣に満ちたコースである。

〔鎌倉峽・百丈岩〕

大阪西北部・廣根 五萬分の一

阪急寶塚又は福知山線生瀬驛―蓬萊峽―船坂―船坂川下降―鎌倉峽―百丈岩―百丈河原―省線道場驛

徒歩距離 十八軒 或は寶塚より名鹽を通り七合小橋に出るコースもよい、多少近道である。

生瀬驛から有馬街道を太多田川沿ひに座頭谷の急谷や蓬萊峽の奇勝を賞でつゝ船坂まで登る。こゝから街道と岐れて右折し、六甲山の石の寶殿に源を發する船坂川の沿岸傳ひに丸山を越え、三田街道に入り、七合橋から、また街道と分れて鎌倉峽の素晴らしい谷間に入る。約四軒の間岩から岩への徒涉や岩角のへつりに谷のスリルを味つて下つてゆくと、趣の違つた百丈河原に出る。岩峯空に聳える百丈岩を見上げる。百丈岩からの尾根に出てこの岩峯に立つと脚下に蛇行する船坂川や、北攝の山々が連互せる姿が展開される。健脚の士を惹きつける谷歩きコースである。

〔龍岩・千刈水源地〕

廣根 五萬分の一

福知山線武田尾驛ホーサン―僧川―玉瀬―龍岩―丸山―千刈水源地―道場驛

北攝方面 (満願寺・多田神社・鎌倉峽・百丈岩・龍岩・千刈水源地) 二〇五

徒歩距離 十四軒

武田尾の奥武庫川の溪谷美と、北攝の低山地帯を縫ふコースで、起伏の美しい尾根と高原、そこに點々とした倭松と草原とが展けて爽やかな気分を表現してゐる。殊に千刈水源は曲折した波豆川の谷に潜水した人工湖を現出して印象的な景趣を添へる處である。

○参考

【千刈水源】 神戸水道の水源地で、攝丹の國境から發源する波豆川と波東川との出合から下流約八軒の間大岩嶽の北、及び西を取巻く谿間に潜水した山湖で周圍二十八軒に亘つて碧水をたゞへ、山湖の面影も鮮かに近代的景觀をなしてゐる。



六甲を中心としたコース

大阪西北部、神戸 五萬分の一

六甲の嶺。阪神兩都の間に崛起する山塊で、都に近く海に近く。山麓を走る各交通機關によつて、山尾根の縦走はもとより到る處の隅々までも變化に富んだハイキング、コースを求め得る山地で他にその比がない程に迄拓けてゐる。

山塊の最高點は九三二米で京阪神地方では屈指の海拔高度を持つてゐる。山塊をつくる地質は花崗岩から成り、所謂御影石の産地である。この花崗岩の風化によつて變化に富んだ景觀を縫つて山徑が通じてゐるのであるが、山腹は侵蝕によつて削立された奇景に富み、山頂は平坦面を現はして、ゴルフ場が設けられたり、坦々たるドライブウェイは東西に尾根面を走り、スケート池が散點するなど、全く兩極端の地形を表現する。此の山こそは凡ゆる角度から山の美を禮讚し得る「山の公園」と謂ひ得る。

随つて六甲山を中心としたハイキングコースを求めると、到底枚舉に遑がない程であるが、こゝに一般的な代表コースを掲げて見る。

北攝方面（六甲山を中心としたコース）

① 甲陽園・船阪越 大阪西北部 五萬分の一

阪急甲陽園驛―甲山(神呪寺)―鷺林寺村―福井寒天小屋  
―ドライヴウェイ(上り)―盤瀧―船坂越道(七曲り道)―  
船阪峠―有馬街道―寶塚驛

徒歩行程 十七軒

甲山の西側から六甲東尾根へ上り、裏六甲道へ降るコース  
で、甲山の鬱蒼とした樹林を頂いたあの姿は附近の赤裸々な  
山肌と好対照をなした景趣を現はしてゐる。

甲山は大阪附近に珍しい塊状火山の型をなしたもので、花  
崗岩の間に噴出した甲狀の一個の火山である。

② 七曲谷・奥池 大阪西北部 五萬分の一

阪急甲陽園―北山越―七曲重造谷―奥山池―芦屋川・四番谷出合―阪急芦屋川

徒歩行程 十三軒

甲陽園から近道を辿つて北山に行き栢堂<sup>カヤドツ</sup>から七曲谷に入る、夙川の上流でカンノン山(五二二、  
七米)の南から曲りくねつた谷道を縫うて奥池に出る。六甲山特有の頂上近くに高原状を現はし  
た地形はこゝ五百米近くの山中に大きな溜水池が見られるのである。この池畔で晝食をすまして  
西南方トツクリ谷(芦屋川東岸四番谷)に入り、芦谷本谷を通つて芦屋川驛に出る。山百合の花、  
夏の渉流はハイカー連に懐かしめられる。

③ 東お多福山 大阪西北部 五萬分の一

芦屋川驛―高座瀧―芦屋ロックガーデン―雨ヶ峠―東お多福山頂上―芦屋谷道―芦屋川驛  
徒歩行程十五軒 芦屋川の支流高座谷を入つてロックガーデンの山骨突兀とした幾條かの尾  
根が縦横に連なつて、岩壁や鋭峯が峙つてゐる。六甲山中に於ける特趣な山岳景觀を形成してゐ  
る處である。風吹岩から北へ雨峠に出て緩かなうねりの東お多福山から芦屋本谷に出る。

④ 住吉道・有馬越 大阪西北部 五萬分の一

北攝方面(甲陽園・船阪越・七曲谷・奥池・東お多福山・住吉道・有馬越) 二〇九



阪急御影驛—白鶴美術館—住吉道—六甲最高峰—有馬—(バス)—寶塚  
徒歩行程 十五軒

六甲山の中央を南北に縦断するコースで、東の魚屋道と、この住吉道とが山頂近くの本庄橋で出合つて九三二米の六甲最高峰へと通じて表六甲から有馬へ路となつてゐる。

⑤ 六甲山頂縦走 大阪西北部、神戸 五萬分の一

阪急寶塚驛—鹽尾寺—讓葉峰—船阪峠—石寶殿—六甲最高峰—山頂縦走—六甲ゴルフ場—阪急食堂前—前辻—阪急六甲驛

徒歩行程 二〇軒

六甲山を東西に横断するコースで、眺望廣濶、明朗な六甲特有の山の色と香とを思ふ存分吸ひ乍ら杖を曳くコースである。

⑥ 六甲・摩耶 神戸 五萬分の一

阪急六甲驛—六甲記念碑—三國池—アゴニー坂—摩耶山—青谷—阪急上筒井

徒歩行程 十三軒

阪急六甲驛よりドライブウェイに沿うた坦々たる途を上つてロープウェイの驛から左手に谷を昇る。水害後は少々途が傷んでゐるが、山上の阪急食堂の横に取つかゝるのは最も近道である。東して山頂の最高峰に至り、こゝより少々後戻りして摩耶山道に向ふ。深い森に包まれた摩耶の峯へ。青谷は親しみのある谷である。

⑦ 摩耶・布引 神戸 五萬分の一

阪急上筒井—青谷—天上寺—徳川道—二十度渉—市ヶ原—布引貯水池—布引瀧—阪急神戸

徒歩行程 約十四軒

上筒井終點から深い森の谷間、青谷本道に入る。

北攝方面(六甲山頂縦走・六甲摩耶・摩耶布引)



摩耶山から西六甲の西腹を下り、徳川道に入り雑木の間を行く一軒餘で丁字路に出る。左にとると二十度渉である。生田川上流の静な境地である。市ヶ原の茶屋に小憩、水源池を経て神戸市に下る。

⑧ 摩耶・再度山 神戸 五萬分の一

阪急上筒井―青谷―摩耶山―櫻谷―徳川道―二十度渉―山田道分水嶺越―鹽ヶ原―再度山―二本松―神戸下山手三丁目  
徒歩行程 約十六軒

裏摩耶山から再度山へ出るコースで、山田道分水嶺邊りから俯瞰する明石海峡の海、二本松、錨山の尾根から夕陽に輝く扇港の風物は他にその類例を見ない趣きを現はしてゐる。

⑨ 須磨裏山 須磨 五萬分の一

省線兵庫驛―長田神社―高取山―那須與市墓―横尾山―多井畑峠―高倉山―鐵拐山―鉢伏山―須磨驛

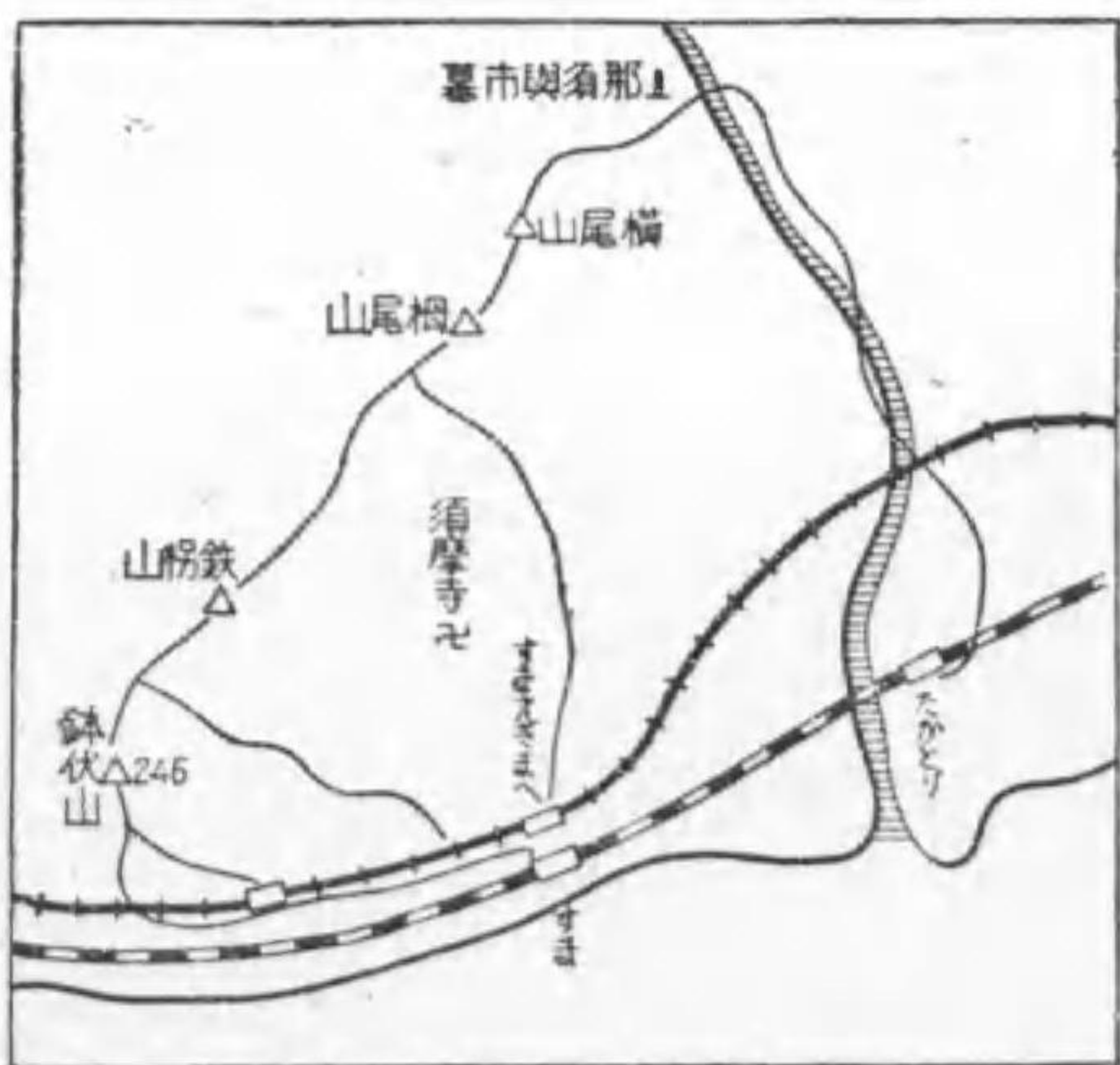
徒歩距離 十四軒

須磨裏山は何れも三百米内外の左程高いものでないがこゝから明石海峡や、淡路島を俯瞰した景趣はとも良し。その上に横尾山はピラミッド型に峙つて神戸槍の別稱があるほど、花崗岩の風化した奇景を現はし、アルプス氣分を味ふに足りる。

【長田神社】 祭神事代主命 社殿東方の石燈籠は村上天皇が當社に雨を祈願せられた時に寄進せられ給ひしものである。

【鐵拐山】 一ノ谷の西北に當り、攝播兩國にまたがる峻嶺である。源義經三千の兵を率ゐてこゝに陣容を整へたので、今も勢揃の松といふがある。一ノ谷の逆落しはこの山より内裏跡に下る急阪である。

北攝方面（摩耶再度山・須磨裏山）



【鉢伏山】 神功皇后御凱旋の時兜を埋め給へるによつて山名が起つたとも云ひ、敦盛塚背面の小丘、内海の展望がよく、航空燈臺が聳えてゐる。今市營の遊園地となつてゐる。こゝから須磨の浦曲に急下りに降りる。

播淡方面

(山陽本線、兵庫電鐵、攝陽汽船)

〔太山寺・人丸〕

神戸、須磨 五萬分の一

敦盛塚―鉢伏山―下畑―名谷―高塚山脈―太山寺―人丸神社―人丸驛  
徒歩距離 二十軒

○参考

【太山寺】 一ノ谷から七軒、天臺宗

傳教・空海の教書を寶藏し、石童丸の誕生地である。

【人丸神社】 柿本人麻呂を祀り、柿本大明神の神號を賜はる。境内の展望絶佳、筑紫の盲人が

参詣して

ほの／＼と誠あかしの神ならば、我にも見せよ人丸の塚と詠んだ、その眼が忽ち開いたので携へて來た杖を地に挿して去つた。その杖より芽を出したといふ盲杖の櫻がある。

〔垂水・舞子〕

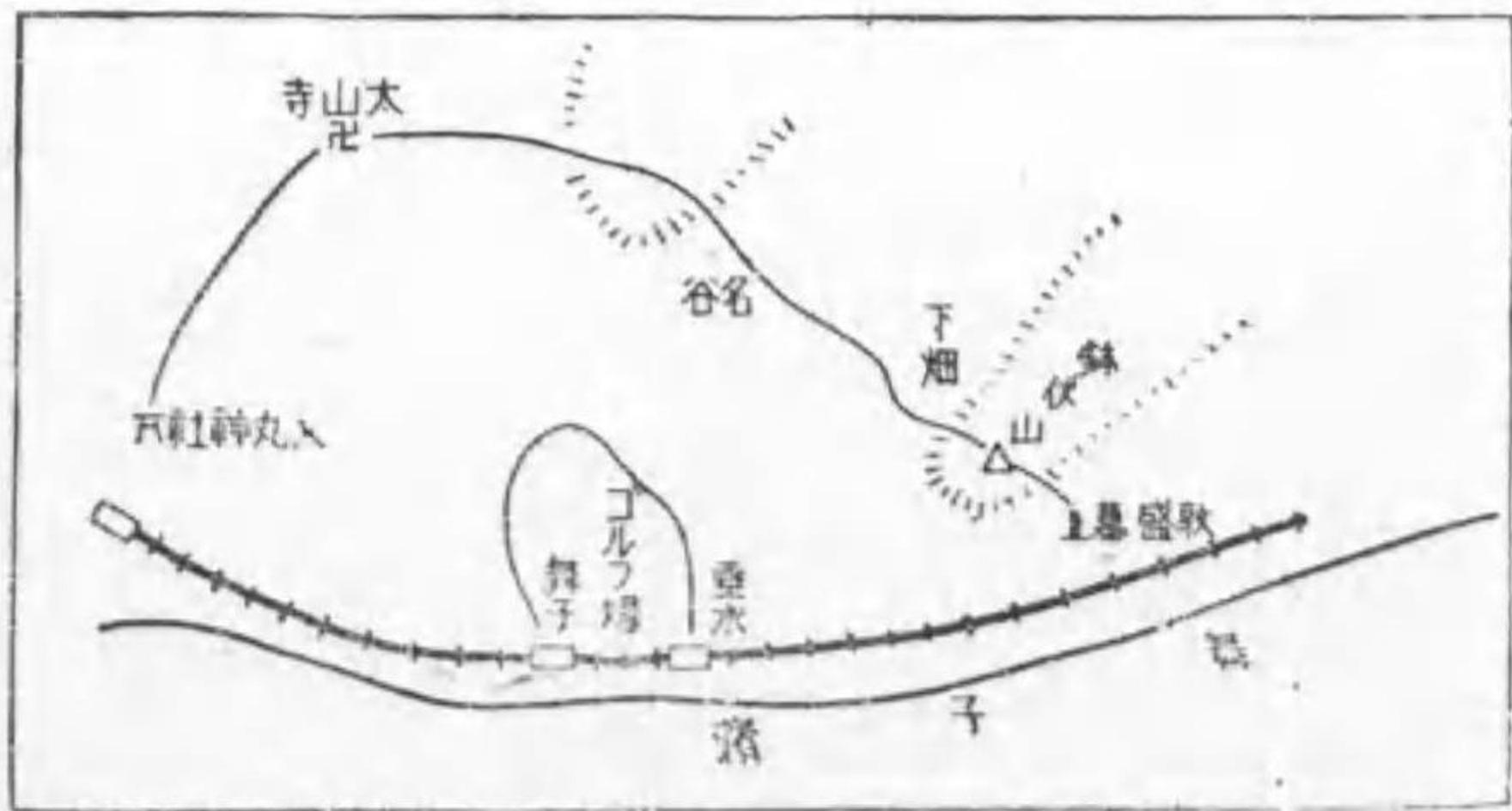
須磨 五萬分の一

垂水驛下車―潮見ヶ丘―舞子ゴルフ場―千代ヶ丘―佛の松―石松―舞子公園  
徒歩距離 七軒

○参考

【潮見ヶ丘】 ゴルフ場より瀬戸内海の展望は棄て難い景趣である。佛の松は山上平坦地に一面に若草の萌える處、石谷は舞子より北へ一軒餘、巨岩巨木が交錯した谷間で、瀧となり、淵と

播淡方面(太山寺人丸・垂水舞子)





なつて清水が滾々として流るゝ處である。

〔淡路岩屋背山〕 須磨、明石 五萬分の一

明石驛下車—明石港—(汽船)—岩屋—石の寢座—江崎村—江崎燈臺—松帆の浦—岩屋  
徒歩距離 十軒

○参考

【岩屋】 明石と相對して明石海峡を挟み、全淡自動車の起點で、明石鯛を始め、海産物の集散地、海水浴場があり、銷夏に適してゐる。

【繪島】 大和島と共に岩屋の海岸に近くそばだてる小さい岩島で往昔平家の公達がこの島に渡り、觀月を試みたといふ處である。



【松帆の浦】 淡路島の最北端の海岸で、明石海峡の最も狭い處で、二海里を隔てゝ明石、舞子

の勝景と相對した白砂青松の清岸である。

來ぬ人を松帆の浦の夕風に

焼くや藻汐の身も焦がれつゝ

定家

〔書寫山・廣峰〕 姫路 龍野五萬分の一

姫路—白鷺城—横關—書寫山—廣峰神社—<sup>マスケラ</sup>増位温泉—白國梅林—姫路  
徒歩距離 二十二軒

姫路市を表徴する白鷺城と、それを圍む書寫、廣峰の連峰を跋渉する變化に富んだコースである。

○参考

【姫路城】 本丸は指定史蹟、本丸及西の丸共に特別保護建造物となつてゐる。當城は室町時代赤松則村の子貞範初めて、此に築き、天正五年羽柴秀吉新に三層の天守閣を築き、慶長五年池田輝政こゝに封ぜられて五層閣を築いて白壁塗とし、城全體の規模をも一變し、更に天和

播淡方面(淡路岩屋背山・書寫山廣峰)

三年本多忠政に依り、本丸、二の丸、三の丸を擴築して遂に完城を見たものである。此の城は外觀の壯美以外に次の特色を有してゐる。

①城内に「いろは」四十八門を設け、大手から天守閣に至る間、右折左折の幾曲りにもなつてゐること。

②天守閣と各櫓、櫓と櫓との間を凡て所謂多聞長屋と稱する步櫓で連絡してゐること。

③步櫓及隅櫓に無數の狭間(銃眼)を設けて縦射横射に便し、且つ城内の通路とその挟間との配合を巧にして一の死角をも見出し得ないこと、今日の築城家も驚嘆する所である。

尙城内には埋門、姥ヶ石、お菊の井、腹切櫓、千姫の居館、化粧館等幾多の獵奇的な秘話を残した舊蹟がある。

【増位山温泉】 姫路市の北に連亘する廣峯山、増位山の中腹の温泉で鐵鑛泉、清閑な境地で四季浴客が絶えぬ。

【書寫山園教寺】 西國二十七番の札所、天臺宗の名刹で、花山、後白河、後醍醐諸帝の行幸あらせられた處である。

辨寺城廣潤、古松老杉鬱蒼として、山内には奥の院、開山堂、眞言堂、不動堂、武藏坊慶の學問所などがある。

はるくと登れば書寫の山おろし

松の響もみのりなるらん

全山赤松の美林に蔽はれて松茸の産地。

### 〔洲本・先山〕 徳島 二十萬分の一

洲本—先山驛—千光寺—二本松—(汽車)—洲本

徒歩距離 十二軒

大阪より洲本迄攝陽商船の大阪、洲本間の夏季(自四月至十月)に於ける定期發着を記すと、

急行

往	天保山發	午前 八時	午後二時三〇分
	洲本着	午前一〇時二〇分	午後四時五〇分

播淡方面(洲本・先山)

洲本發 午前一時四〇分 午後六時  
 復 天保山着 午後二時 午後八時二〇分

神話の國、歌の島、淡路の島への淡路探勝コースである。静かな大阪灣の海波を蹴つて傳説の島を訪れるのも夏季に於て試みてよい目的地の一であらう。

○参考

【洲本】 淡路第一の主邑で、緑の山と松並木に囲まれた美しい港街である。情緒のある波止場氣分が偲ばれる。

【三熊山】 白砂と青松の海岸大濱公園傳ひに、洲本城址を觀て登る。登攀容易で約六、七丁、眺望可なること全島中の冠といはれてゐる。山脚の碧海に迫るところ、詩人獨歩をして「孤島の絶勝」と叫ばさしめ、文人嶺雲が「海岸の耶馬溪」と嘆賞した。

【先山千光寺】 全島第一の名山で淡路富士ともいはれる。千光寺は淡路巡禮第一番の札所で、菅笠と紅緒の姿なつかしい巡禮姿が展開される。延喜年間僧寂忍の開創にかゝる。

近江方面

(東海道本線)

〔矢橋・瀬田橋〕 京都東北部、京都東南部 五萬分の一

東海道本線草津驛―矢倉―矢橋―南大萱―建部神社―瀬田唐橋―石山寺―石山驛  
 徒歩距離 約一六軒

湖南の風光を賞でつゝ往昔の名残床しい往還路の面影を偲ばんとするコースである。

○参考

【草津】 古への東海道と中山道との分れ路で、現在は東海道本線と草津線との分岐點に當る要地である。今もある名物姥ヶ餅の茶屋に昔を偲ぶも亦一興。往時の東海道・中山道の追分は現在道標のある位置よりも南であつたといふ。名物に姥ヶ餅、竹根鞭がある。

【矢橋】 近江八景の一に數へられる「矢橋の歸帆」はこゝ、湖岸の寂びた風趣は湖國ならではの味ひ得られぬ特色を現はしてゐる。湖上を隔て、對岸大津市との間六軒。

近江方面(矢橋・瀬田橋)

【建部神社】 官幣大社 近江一の宮

祭神は日本武尊で、神社に藏する女神坐像は木造淡彩を施した垂髪姿で、藤原時代末期の製作。國寶に指定されてゐる。

【瀬田唐橋】 中島によつて大小二橋に分れ、大橋の長さ一七二米、小橋の長さ五二米、橋幅七米で、新しい鐵筋コンクリート作りであるが、欄干、橋板等凡て古式に則り、外觀は昔の唐橋の風を示してゐる。橋上からは北に琵琶湖、南に石山寺を望み、風色秀でてその夕照は近江八景の一に數へられてゐる。承平の昔依藤太はこゝより三上山の蜈蚣ムカデを射殺したといふ傳説がある。

【石山寺】 (三〇頁参照)

〔鏡山・善光寺蹟・菩提寺蹟〕 近江八幡 五萬分の一

東海道線篠原驛—鏡神社—鏡山窯址—善光寺蹟—八重谷越—菩提寺蹟—三上山—野洲驛ヤス  
徒歩距離、約一八軒

琵琶湖の東南、湖東平野に蟠起する花崗岩地の鏡山・三上山を巡るコースである。

○参考

【鏡山】 海拔三八四米、山は餘り高くないが、登つて湖水を望むと、鏡の如き湖面が眼下に展ける。花崗岩から成つてゐる岩山の常として風化侵蝕が盛んに行はれ、その山麓には到處、土砂の崩壊流出があり廣い蹟が展開する。善光寺蹟・菩提寺蹟などがその尤なものである。

【鏡山窯址及古墳】 篠原驛の東南約三軒、鏡山村山面部落の西南方の丘陵の間に上代の窯址が數ヶ所ある。そこから齊瓮イヘビツ、坏等の破片等が発見されてゐる。この地は古く鏡谷といはれた日槍の從者がこゝにあつて陶器を製作してゐたといふ傳説があり、丘陵上には古墳群がある。

【御上神社】 三上山の西麓に在り、官幣中社、天御影命を祀る。入母屋造の模範的神社建築の遺構である。

【三上山】 海拔四二八米、周圍の低地の間に屹立して形狀富士に似てゐるから近江富士とも云

近江方面(鏡山・善光寺蹟・菩提寺蹟)

はれる藤原秀郷の蜈蚣退治の傳説で知られ、頂上の展望極めて廣濶で湖水の眺め殊に良し。

〔キヌガサヤマ 織山・安土山〕

近江八幡 五萬分の一

東海道本線能登川驛―石馬寺―織山觀音寺―桑實寺―安土城址―安土驛  
徒歩距離 約十二軒

古城址、古寺を訪ね乍ら、湖畔の風光を賞づる家族連れのコースである。

○参考

【石馬寺】 臨濟宗能登川驛の南三軒、織山の中腹に在る。聖德太子の御創建と傳へ、永正年間近江國守護佐々木高頼が篤く歸依し、堂塔を興したが、後兵火に遭つて焼失した。

【織山觀音正寺】 天台宗觀音寺山(織山)の頂上に在る。寺は聖德太子の創建と傳へられ、寺域は佐々木六角氏の館址で、觀音寺城と稱したが、永祿十一年織田信長に攻められて兵火に罹つた。現在のものは其後舊規に復したものである。西國第三十二番の札所。

【桑實寺】 桑峯の薬師といひ、白鳳年間天武天皇の建立で、定惠和尚が唐土より渡れる桑の實

をこの山に植えたと傳へられてゐる。本堂は天正四年の建立で室町時代から桃山時代に至る間の建築の特徴を示したもので、國寶となつてゐる。

【安土城址】 高さ約二〇〇米の安土山の頂上に在る。天正四年織田信長が丹羽長秀に命じて築城させたもので、我が國に於て七層の天守閣を築いた城廓の初めと稱せられ、三年の歳月を費して完成された。

内外の構造凡て時代の好尚を現はして雄大壯觀を極めてゐたが、同十年本能寺の變の後、火燹のため灰燼に歸して、こゝに三百七十年。山は夏草の茂るまゝに委せられてゐるが、當時の雄圖は猶、石壘、濠址等に偲ぶに足る。天守閣址から東北の八角平と稱せられる平坦な處は琵琶湖に臨み、湖中の小島より、比良、比叡の諸峯を望み得て眺望極めて廣濶である。二の丸跡には織田信長の廟がある。

〔醒ヶ井・多賀〕

(彦根東部 五萬分の一)

東海道本線醒ヶ井―(バス)―養鱒場―榑ヶ畑―落合―河内風穴―栗栖―多賀神社―多賀―彦

近江方面(織山・安土山・醒ヶ井・多賀)

根

徒歩距離 約一七軒

省線醒ヶ井驛から南行して樽ヶ畑までは三百米程の上りであるが、其れより西南方へのコースは片川谷の下りとなる。

○参考

【縣營養驛場】 宗谷川を利用したもので、瞥見の價値が十分にある。

【河内風穴】 山女原アキビガハラから宮前の八幡宮左側を裏へ廻り、權現谷に沿うて三百米程行くと河内の風穴がある。入口が一米足らずであるが奥行は二百五十米程ある。

【多賀神社】 官幣大社

伊弉諾、伊弉冉二柱の祖神を祀り、境内廣く、千年の老樹巨木森々たる處に鎮座まします。古來上下の尊崇厚く、延壽の神として參拜者は皇大神宮・出雲大社・金刀比羅宮に次ぐといはれる。豊臣秀吉が母の全快を祈願して「命の儀三ヶ年、不成は二年、實に不成ば三十日にも延命候様」と母の命を念じたる、まことに太閤の人格を偲ばしめる。

〔伊吹山〕

近江長濱 五萬分の一

東清道本線近江長岡—春照村シユンゼウ—上野—伊吹山頂  
徒歩距離 一〇軒

冬のスキー場として關西に古くその名を知られた名山であり京阪神地方よりはスキーの特別列車が發着する程であるが、春夏の候にはその高原狀の雄大な姿に接して眺望をほしいままにし得る登山趣味の豊かな處である。夏季夜行登山を催して朝暾朗かに東天より昇る所謂「御來光」を迎へるのも亦絶好の地である。

○参考

【伊吹山】 海拔一三七七米で琵琶の湖東に、ドツシリとその雄姿を横たへてゐる。往昔日本武尊の御東征の歸途當山に登り給ひて毒氣に當てられ給ふたと傳へられる地である。

冬のスキー場は上野部落より急阪を登りつめた一合目のスロープから更らに三合目の緩かなスロープを持つ邊である。

近江方面（伊吹山）

夏季登山にはそれよりも急傾斜な山頂をめざして登る。附近は草原状の高地で西には近く近江、山城の山々より琵琶の湖面を望み、東は加賀白山から遠く中部地方のアルプスの山々までも望見し得る展望台である。伊吹桑草、特にその艾は知られてゐる。



## 附 録

### 一、地圖の見方

(1) 地圖の種類 地圖はその目的に応じて種々な地圖が作られてゐるが、こゝではハイキングに用ふるものとして最も便利で、利用し易い地圖即ち陸地測量部発行の地形圖について一通り説明する。

この地形圖が色々の縮尺によつて刊行されてゐるが、登山ハイキング用としては五萬分の一地形圖幅が最も都合がよい。内地では要塞地帯を除いてどこの土地でも刊行されてゐる。五萬分の一地形圖の外に都會地又はその附近では二萬五千分の一地形圖が刊行されてゐる。山地などで二萬五千分の一の發行されてゐる個所などではなるべくそれに依る方が見易い。

(2) 縮尺 地圖には必ず縮尺(梯尺ともいふ)が記入してある。縮尺とは地圖の上に、實際の土地の長さある比率で縮めて表はしたもので、普通は一を分子とする分數の形で表はしてゐる。手短かにその縮尺を用ゐて實際の道路の道路の長さなどを測るには、コンパスで縮尺の上の一定の

長さを定め、之を一単位として地圖上の二點間を何回でも計り結び、その總和を求めればよい。物差で計つてもよい。たゞ山の傾斜地などはこれで計ると傾斜が直線距離となつて、出るから實際はその幾分か距離は長くなる。

(3) 方位 普通には上を北、下を南とするものであるから、これらの地形圖には別に方位を示してゐない。圖幅の外廓の線が、縦が經線を表はし、横が緯線を示したもので其の度数をも記入してある。

(4) 起伏の表はし方と見方 陸地測量部五萬分の一又は二萬五千萬の一地形圖は等高線式によつて描かれてゐる。

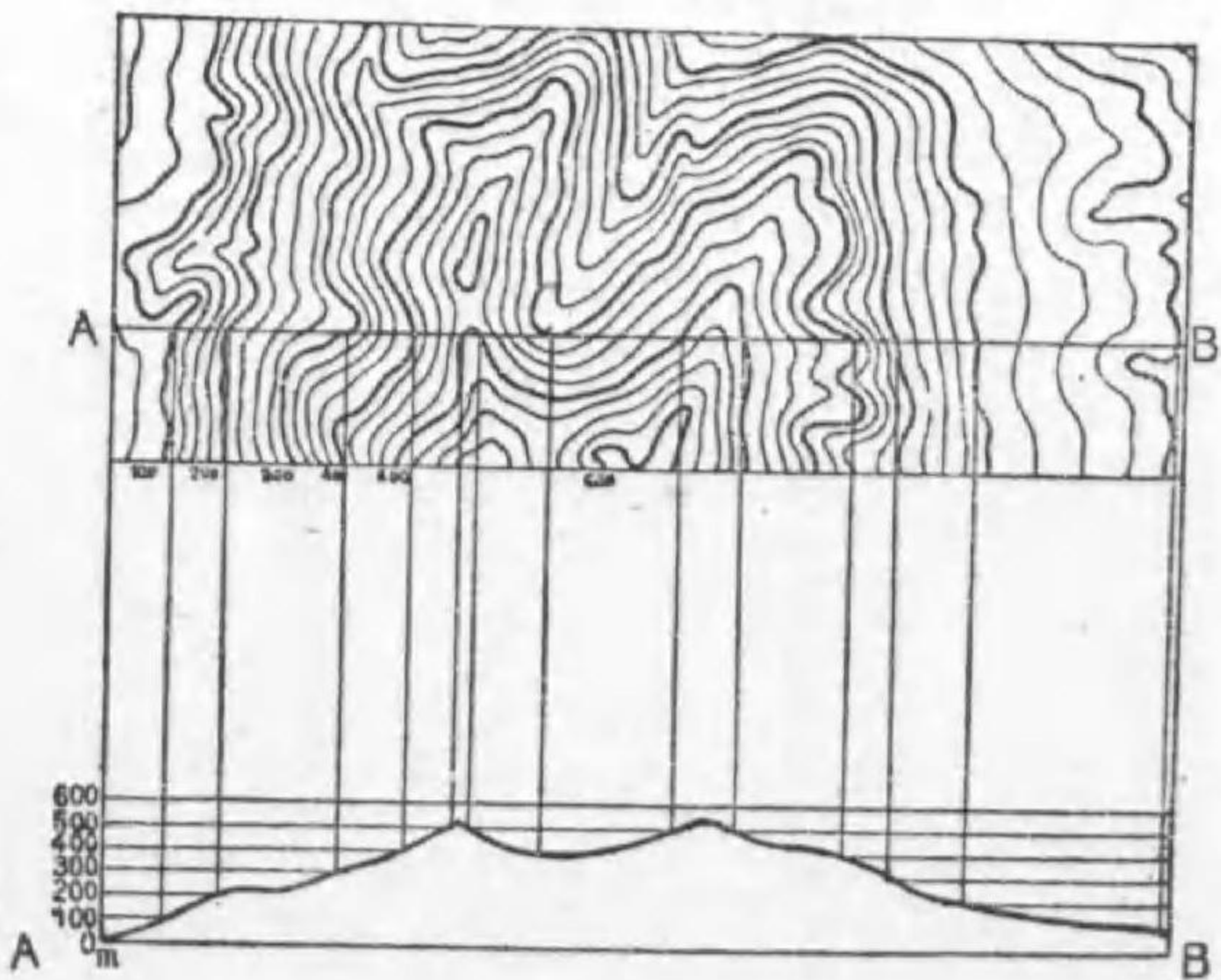
等高線とは等しい高さをもつ諸地點を連ねた線で、土地の各部の高さが正確に示されてゐる。この見方に慣れて土地の高低、傾斜の度合などが、前以て頭に大體描寫し得る程度になることが必要である。等高線の密な所は傾斜が急で、粗な所は傾斜が緩かであるから、その粗密を知ることによつて土地の傾斜を判讀することが出来る尙山地で等高線が鋭く劣つた方は一般に谷の上流で、丸くふくらみの出てゐる方は山の斜面の下側である。又山は山頂で、小さな圓となり、尾根

の或る部分は長い環狀となつて現はれることがある。鞍部では瓢箪形に隘れ、丸い低窪地は矢印で示されてゐる。

(5) 地物の表はし方と見方

(イ) 河川 水深は平水時のもので、横線の下に數字を記入してある。岸の高さは水深は平水時のもので、横線の下に數字を記入してある。岸の高さは水面からの岸高で、横線の上に數字を記して表はしてある。

(ロ) 植物表示 栽培物の種類や、耕地か非耕地か等の別は凡て圖幅の左欄外に記載されてゐるから、それに依らねたいが、同じ栽培物が廣い區域に亘つて居るときは地類として點線を以てそれを圍んだ形に表はしてゐる。又何の標示もなく空地の様になつてゐる個所は多く野菜畑となつてゐる。





(ハ) 道路 道路の幅の廣狹によつてその記入例は凡て異なつてゐるが、注意すべきは山中に於ける點線路で、平素餘り通行せぬ道は道らしいものがあつても草叢が多くて非常に困難を感じ時には杜絶した處があつたりするので、餘程慎重を要する。又其後の道路改修で思はぬ處に立派な道路が通じてゐるのに出遭ふことがある。其都度、簡単に記入し置くと再度の場合に非常に役立つ。

其他諸記號の詳細は凡て圖幅の左欄外に記載されてゐるから、それに就いて知られたい。

## 二、御陵墓

### 形式

我が國の御陵墓の形式は數度變遷してゐるものであるが、大體上古に於ける御陵墓の規模は極めて壯大で、上古人の皇室に對する崇敬心の現はれと觀ることが出来る。

(1) 第一代神武天皇から第八代孝元天皇に至る間はその形式全く不明で、唯だ山によつて埋葬し奉つたことが推しはかられる。

(2) 前方後圓型 第九代開化天皇から第三十代敏達天皇に至る廿二代の間はこの型式で御陵墓

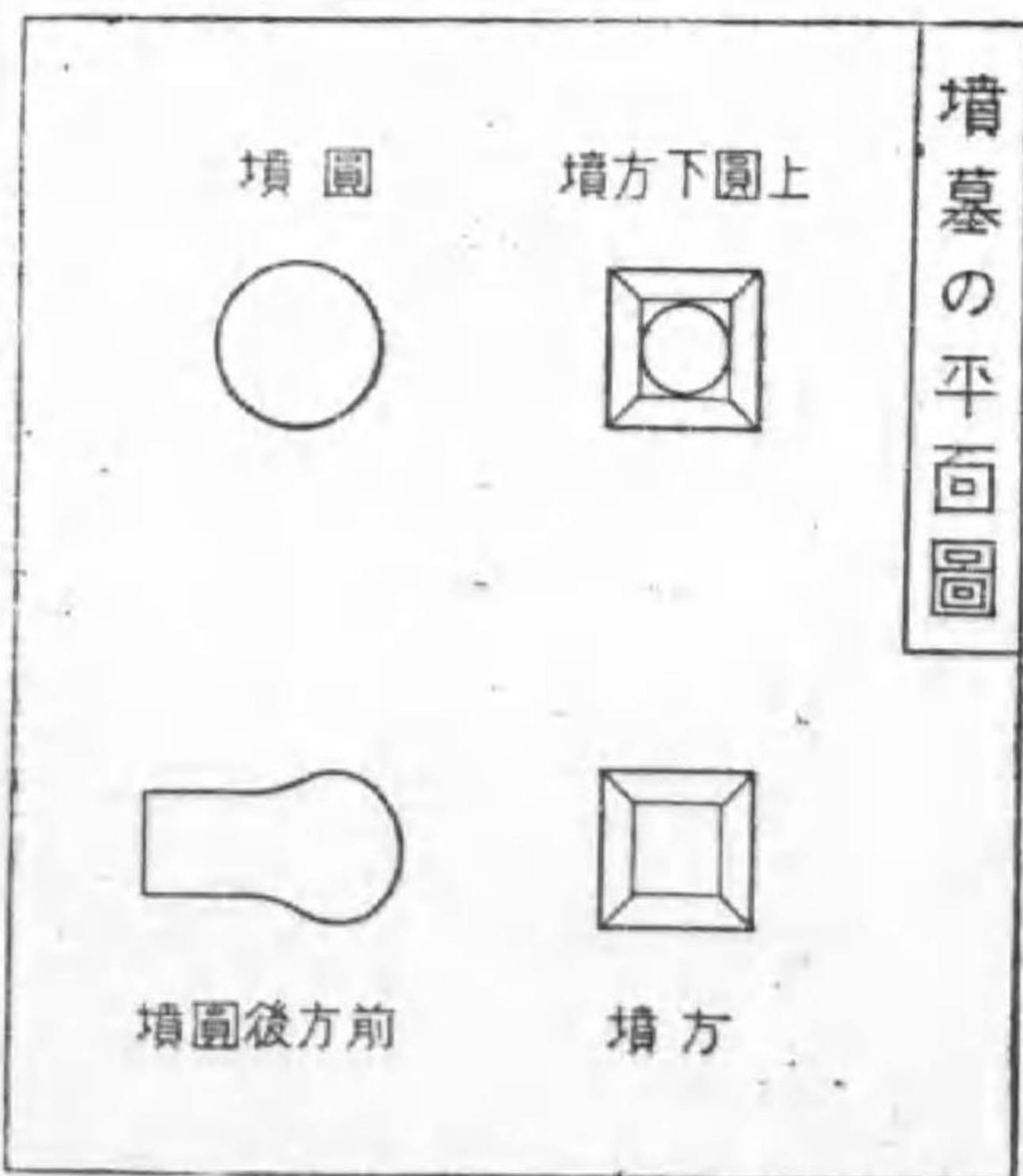
の規模も大きく、殊に仁徳天皇陵はその最も大きなもので、周りには三重の塚が繞らされ、周圍には十數個の陪塚がある。

(3) 方型 第卅一代用明天皇から第卅三代推古天皇の間には是の形式で用明天皇陵の四圍には空障カラゴリがあり、其外に土手を廻らしてある。

(4) 上圓下方型 下は方型で、その上に圓墳を築かれもので、舒明天皇以降である。舒明天皇陵は、下方は三壇上圓は二段となつて居る。里人は段々塚又は天王の森と申し上げてゐる。明治天皇伏見桃山御陵もこの型式である。

(5) 圓型 圓型で周圍に濠を繞らされたものもある。孝徳天皇陵は山の頂きに築かれた圓墳で大化二年詔あつて葬式陵制を制限せられたので、斯く小さく營まれたものである。

墳墓の平面圖



### 三、神社と其様式

#### 1、社格

社格とは由緒による神社の資格で、それらを表示すると次の通りである。



官幣社……主に皇統の祖神、または皇位繼承者を奉祀し國幣社と共に國庫より神饌、幣帛料を供進せられる。祭神の功績及び神社の由來によつて社格を大・中・小の三種とする。近畿地方に於て一例を挙げると

官幣大社——橿原神宮・平安神宮・住吉神社

官幣中社——伊太祁曾神社・熊野那智神社

國幣社……國土經營に功勞あつた神を祀る。昔は國司より幣帛を奉つたが、今は國庫より官幣社と同様に奉幣する。社格は大・中・小の三種に分けられる。

國幣大社——多度神社(三重縣桑名郡)

國幣中社——<sup>アノケニ</sup>敢國神社(三重縣阿山郡)

別格官幣社……皇室に忠誠をつくした士又は國家に功績のあつた人を祀る。

湊川神社・四條畷神社・談山神社・阿倍野神社。

#### 2、社殿の様式

我國の神社建築の特色は輪廓は直截簡明で、複雑な裝飾などは濫りに用ひてゐない處にある。その様式を時代別にすると大體次の通りである。

大社造……出雲大社(島根縣)  
 大鳥造……大鳥神社(大阪府)  
 奈良朝以前  
 住吉造……住吉神社(大阪府)  
 神明造……伊勢神宮

平安朝時代

春日造……春日神社（奈良縣）

流造……賀茂御祖神社（京都府）

八幡造……宇佐神社（大分縣）

日吉造……日吉神社（滋賀縣）

鎌倉室町時代

祇園造……八坂神社（京都府）

香椎造……香椎宮（福岡縣）

豊臣時代以後

八棟造……北野神社（京都府）

權現造……東照宮（栃木縣）

神明造

伊勢の皇大神宮は神明造の最も正しい形式を傳へたもので、平（ヒラ）屋根の雨水の落ちる方、即ち正面）を正面とし、千木の尖端は皇大神宮では水平（内ソギ）、豊受大神宮は鉛直（外ソギ）屋根は茅葺である。

堅魚木は皇大神宮は十本、別宮以下は偶數を用ゐる、豊受大神宮は九本、別宮以下は奇數を

用ゐてある。

大社造

妻（屋根の雨水の落ちない方即ち側面）を正面にし、階段は向つて右側に設けられたもので、出雲地方以外には見られない形式である。

大鳥造

大社造の一變態で四方に廻縁のないのが主な相違である。

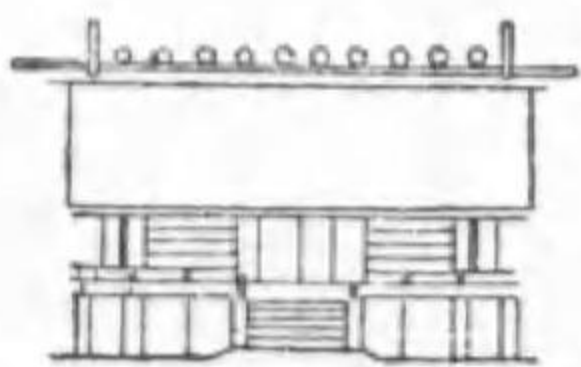
住吉造

大鳥造の更に複雑になつたものであるが、尙太古の面影を存してゐる。

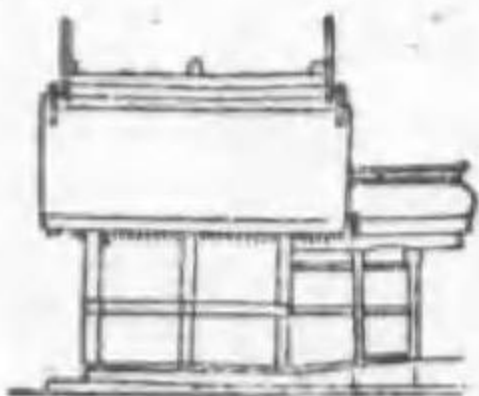
春日造

屋蓋を曲線形にしたもので、大和の國に最も多く見られる。建築が曲線形の輪廓をつくる

神明造



大鳥造



大社造



住吉造



やうになつたのは佛寺建築の影響で、平安初期に始まるといはれてゐる。  
流造

神明造に向拜を加へ屋蓋を曲線形にしたもので、屋根の前の流れは後のそれよりも長く、側面から見ると、破風は左右同形をしないで、向拜の附加してある部分に向ひ低く流れ落ちてゐる。

#### 四、寺院建築

##### 1、伽藍の規模、配置等を各宗に分けて観ると

###### イ、奈良六宗の伽藍

六宗とは三論・成實・法相・俱舍・華嚴・律宗のことで、所謂七堂伽藍の均齊のある規模を備へてゐる。その配置には百濟様式と唐様式とがある。

百濟様式→飛鳥時代のもので法隆寺、四天王寺等で廻廊を以て圍む内院の中に金堂と塔とが相並ぶ。

唐様式→奈良時代のもので、塔は中門の外に東西兩基あり、金堂は内院の後廊の中に立ち、

内院は中庭をなしてゐる。

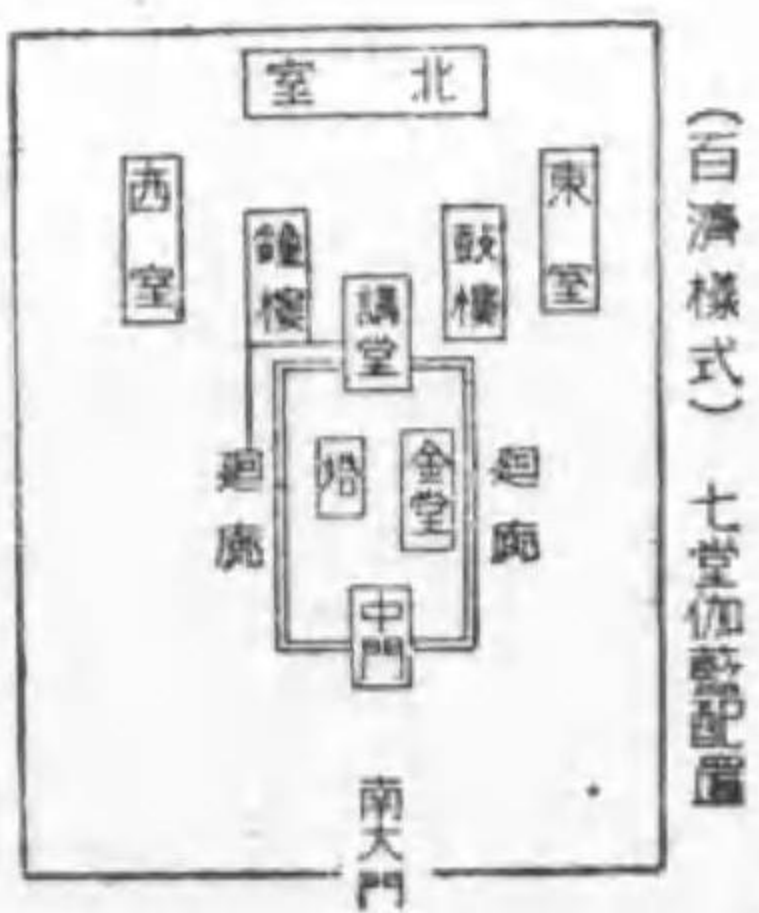
六宗の中現存するものは法相（法隆寺は本山）華嚴宗（東大寺は本山）律宗（唐招提寺は本山）の三宗である。

###### ロ、天臺・眞言宗の伽藍

天臺眞言の二宗は平安朝の初朝に一種の宗教改革の意味を以て興つたもので、多く山嶽に倚つて建立されたものであるから、地形に應じて配置され、左右均齊の配置を採つてゐる。

天臺宗→主要な建築は中堂で、廻廊と門とを備へる。又常行堂及法華堂は並立し、橋廊を以て之を結びつける。……比叡山延暦寺。

眞言宗→金剛峯寺は眞言伽藍の濫觴で多寶塔を中心とし之を根本中堂と名づけ、別に金堂以下の堂宇、山門が



ある。

### へ、禪宗

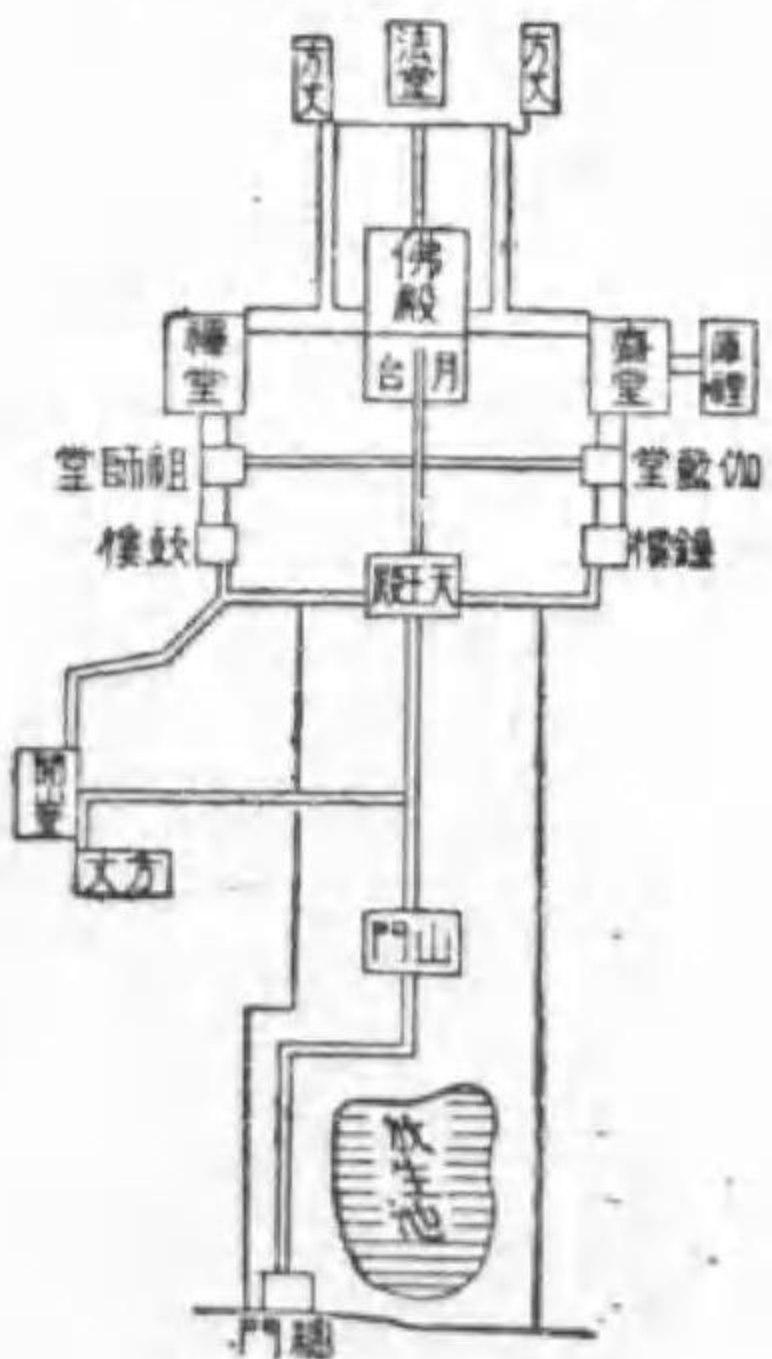
禪刹は支那宋代の佛寺建築を標準として、多少それを日本化したもので多くは平地に建立されてゐる。

禪刹の七堂伽藍は第一門を總門とし、次に泮池があり之を過ぎると山門がある。次いで佛殿、法堂、方丈の順に一直線上に配置され、禪堂、鐘樓、經藏、浴室、東司等は配置される……京都五山（建仁寺）

宇治の黄檗山萬福寺は殊に支那趣味に富み、純支那的手法を見る。

### ニ、淨土宗及淨土眞宗の伽藍

鎌倉時代に禪宗、日蓮宗、時宗と共に與つた宗教で、從來の貴族佛教を民衆佛教に普及せし



め、日本固有の生活状態に適應せしめた日本化したる佛教である。随つて山上より降つて都市の中に建立された寺院が多い。智恩院（淨土宗）、東西兩本願寺（眞宗）は各本山である。

伽藍は祖師堂を中心として阿彌陀堂が之に並ぶ。其他山門、鐘樓、經藏、方丈庫程等が附屬してあり、堂内は總て疊敷としてある。

### 2、佛堂の構造、形式

佛堂の大多數は瓦を以て葺き、屋蓋は急峻で重壓の感じがある。其の形は四注、入母屋、寶形、切妻等に分れ、神殿の殆んど切妻で、稀には入母屋があるのと、可成相違してゐる。立面は單層もしくは重層で、軒廻り及び

妻飾は重厚性を帯び、抖栱及び檜様、彫刻の裝飾に意を用ひてゐるなどは神殿の簡素と異なる點である。又内部の裝飾に於ても宗派によつて趣が多少異なつてゐるが、概ね金碧燦爛た



近畿の山々と史蹟巡り  
るものがあり、神社の清浄、高雅な風格と違つてゐる。

二四二



近畿の山々と史蹟巡り終

昭和十六年七月六日印刷  
昭和十六年七月十日發行

定價金七十錢



著作權所有  
114061

著者 藤田元春

發行者 博多久吉  
大阪市南區大寶寺町西之丁廿二番地

印刷者 井村雅宥  
大阪市浪速區稻荷町二丁目九三五

印刷所 井村書籍印刷所  
大阪市浪速區稻荷町二丁目九三五

東京市神田區錦町三丁目十七番地  
大阪市南區大寶寺町西之丁廿二番地

博多成象堂

振替 東京五二六〇七番  
電話 大阪七三三三番  
南一七七番

配給元

東京市神田區淡路町二丁目九番地  
日本出版配給株式會社

終

